

令和5年第5回（9月）上越市議会定例会

農政建設常任委員会資料

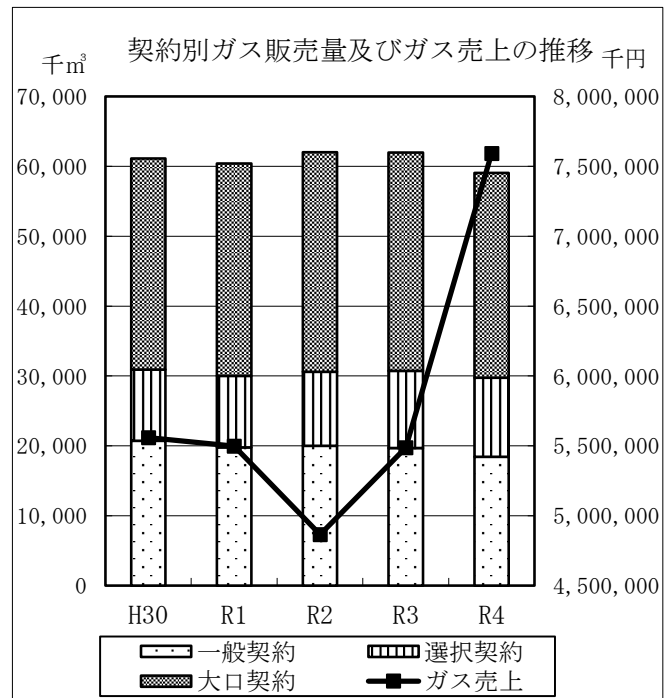
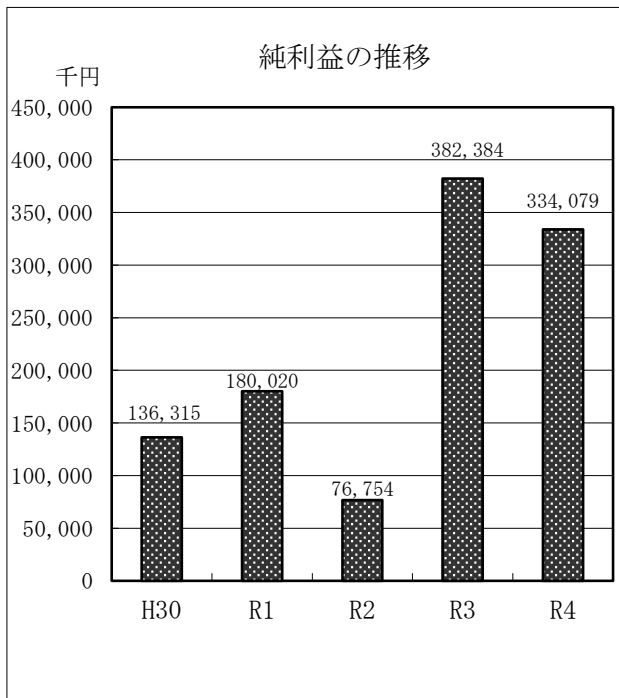
案件番号	案件名	提出課	ページ
議案第72号	令和4年度上越市ガス事業会計決算認定及び利益の処分について	経営企画課	1～31
議案第73号	令和4年度上越市水道事業会計決算認定及び利益の処分について		32～67
議案第74号	令和4年度上越市工業用水道事業会計決算認定について		68～72
議案第83号	上越市ガス供給条例の一部改正について		73～74

所管委員会	農政建設常任委員会
関係案件	議案第72号
提出課	経営企画課

令和4年度上越市ガス事業会計決算の概要

※以下の金額は、消費税及び地方消費税抜きの金額としている。

- ガス販売量は、春先及び冬場の気温が高く推移したことによる給湯・暖房需要の減少や物価高騰に伴う節ガス意識の高まり及び製造業を中心に大口契約の販売量が減少したことにより、前年度に比べ291.8万³m (4.7%)減の5,906.3万³mとなった。
- 収益的収支では、液化天然ガス輸入価格の上昇に伴いガス売上が増加したことから、収益的収入は前年度に比べ24億3,788万円(40.5%)増加した。
また、国の「電気・ガス価格激変緩和対策事業」の補助金を活用し、令和5年1月使用(2月検針)分から都市ガス料金の値引きを実施した。
支出では、収入と同様に液化天然ガス輸入価格の上昇により原料ガス費が増加したことから、収益的支出は24億8,618万円(44.1%)増となり、当年度純利益は前年度に比べ4,830万円(12.6%)減の3億3,407万円となった。
- 資本的収支では、下水道工事など他の工事に合わせ、より耐震性に優れたポリエチレン管などへの更新を行った。
また、内部留保資金の有効な活用を図るため、資金の一部を債券で運用した。
- 経営面では、将来にわたり安全で安定したガスの供給と健全な経営を維持していくため、令和5年度以降のガス事業の経営指針・実施計画として「上越市第3次ガス事業中期経営計画」を策定した。



※選択契約は、一般契約と大口契約以外の契約

1 業務の概要

◇春先及び冬場の気温が高く推移したことによる給湯・暖房需要の減少や物価高騰に伴う節ガス意識の高まり及び製造業を中心に大口契約の販売量が減少したことにより、ガス販売量は前年度に比べ291.8万m³ (4.7%) 減となった。

(都市ガス)

区 分			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比	
								増減数	増減率
1	行政区域内戸数	戸	75,483	75,904	76,546	76,674	77,355	681	0.9%
2	供給区域内戸数	戸	56,469	56,978	57,704	58,003	58,661	658	1.1%
3	供給戸数	戸	46,597	46,721	46,770	46,676	46,528	△ 148	△ 0.3%
4	普及率	%	82.52	82.00	81.05	80.47	79.32	△ 1.15	-
5	年間ガス購入量 (うちCNガス※)	m ³	61,170,668	60,476,131	62,089,339	62,075,791	59,148,256	△ 2,927,535	△ 4.7%
			-	-	-	(482,205)	(1,407,223)	(925,018)	191.8%
6	年間ガス送出量	m ³	61,175,908	60,469,577	62,085,965	62,074,138	59,149,734	△ 2,924,404	△ 4.7%
7	年間ガス販売量 (うちCNガス※)	m ³	61,116,046	60,387,731	62,005,206	61,981,392	59,063,143	△ 2,918,249	△ 4.7%
			-	-	-	(456,000)	(1,370,000)	(914,000)	200.4%
8	一日最大送出量 (一日最大月日)	m ³	292,343	288,441	310,648	299,684	283,526	△ 16,158	△ 5.4%
			(2/13)	(2/6)	(1/8)	(2/22)	(1/26)		
9	一日平均送出量	m ³	167,605	165,217	170,099	170,066	162,054	△ 8,012	△ 4.7%
10	一日平均販売量	m ³	167,441	164,994	169,877	169,812	161,817	△ 7,995	△ 4.7%
11	有効率	%	99.96	99.92	99.93	99.91	99.92	0.01	-
12	職員数	人	49	49	48	48	48	0	0.0%

※CNガスはカーボンニュートラルガス

(液化石油ガス)

区 分			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比	
								増減数	増減率
1	供給戸数	戸	174	170	168	166	162	△ 4	△ 2.4%
2	年間ガス送出量	m ³	12,567	11,999	11,990	11,684	10,804	△ 880	△ 7.5%
3	年間ガス販売量	m ³	12,632	12,047	12,239	11,695	11,077	△ 618	△ 5.3%
4	一日平均送出量	m ³	34	33	33	32	30	△ 2	△ 6.3%
5	一日平均販売量	m ³	35	33	34	32	30	△ 2	△ 6.3%

※送出量・販売量などは、標準熱量100.4652MJでの数値

2 決算の概要

(1) 収益的収支

単位：千円

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
収 入	営業収益	5,557,723	5,498,140	4,865,516	5,486,379	7,592,296	2,105,917	38.4%
	ガス売上	5,557,723	5,498,140	4,865,516	5,486,379	7,592,296	2,105,917	38.4%
	営業雑収益	280,195	319,357	274,661	183,673	179,593	△ 4,080	△ 2.2%
	附帯事業収益	6,689	5,272	5,246	5,056	4,887	△ 169	△ 3.3%
	営業外収益	458,184	418,802	406,003	351,174	687,476	336,302	95.8%
	繰入金	4,502	3,892	3,565	3,170	3,318	148	4.7%
	補助金	0	0	0	0	366,704	366,704	皆増
	長期前受金戻	416,528	377,402	366,732	312,895	278,061	△ 34,834	△ 11.1%
	その他営業外収益	37,154	37,508	35,706	35,109	39,393	4,284	12.2%
	特別利益	0	0	0	89	0	△ 89	皆減
収入計	6,302,791	6,241,571	5,551,426	6,026,371	8,464,252	2,437,881	40.5%	
支 出	営業費用	5,820,474	5,691,397	5,148,179	5,409,129	7,903,730	2,494,601	46.1%
	原料ガス費	3,510,110	3,571,600	3,061,098	3,453,211	6,013,540	2,560,329	74.1%
	職員給与費	312,515	325,732	318,877	315,772	327,909	12,137	3.8%
	(うち退職給付費)	(16,628)	(27,974)	(24,473)	(25,763)	(27,547)	(1,784)	(6.9%)
	修繕費	103,799	94,164	95,614	111,721	111,111	△ 610	△ 0.5%
	動力費	289	299	289	331	348	17	5.1%
	委託料	157,088	166,319	157,593	161,645	162,928	1,283	0.8%
	減価償却費	1,531,483	1,437,960	1,386,082	1,283,605	1,207,538	△ 76,067	△ 5.9%
	その他営業費用	205,190	95,323	128,626	82,844	80,356	△ 2,488	△ 3.0%
	営業雑費用	273,139	310,563	270,389	187,447	183,593	△ 3,854	△ 2.1%
	附帯事業費用	5,972	4,432	3,163	4,023	4,307	284	7.1%
	営業外費用	65,745	55,093	49,210	43,261	38,543	△ 4,718	△ 10.9%
	支払利息	62,085	54,823	48,286	42,370	36,969	△ 5,401	△ 12.7%
	その他営業外費用	3,660	270	924	891	1,574	683	76.7%
	特別損失	1,146	66	3,731	127	0	△ 127	皆減
支出計	6,166,476	6,061,551	5,474,672	5,643,987	8,130,173	2,486,186	44.1%	
収支差引(純損益)	136,315	180,020	76,754	382,384	334,079	△ 48,305	△ 12.6%	

(2) 資本の収支

単位：千円

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
収 入	補助金	0	2,241	29,757	0	0	0.0%	
	工事負担金	242,008	241,506	208,071	152,393	179,514	27,121	17.8%
	固定資産売却収入	39	23	121,569	240	0	△ 240	皆減
	収入計	242,047	243,770	359,397	152,633	179,514	26,881	17.6%
支 出	建設改良費	1,041,091	955,619	1,327,729	722,083	557,952	△ 164,131	△ 22.7%
	(うち職員給与費)	(75,362)	(73,204)	(74,989)	(75,007)	(77,396)	(2,389)	(3.2%)
	土地	0	0	4,041	2,128	4,017	1,889	88.8%
	建物	42,068	60,773	558,686	4,654	217	△ 4,437	△ 95.3%
	構築物	0	0	3,306	2,556	0	△ 2,556	皆減
	機械装置	145,286	0	3,775	0	6,201	6,201	皆増
	車両運搬具	6,338	2,427	3,075	0	0	0	0.0%
	工具器具備品	6,171	7,777	24,770	10,557	8,341	△ 2,216	△ 21.0%
	ガスメーター	12,107	14,255	8,675	8,759	12,183	3,424	39.1%
	導管本支管	663,041	662,836	545,146	557,610	387,069	△ 170,541	△ 30.6%
	導管供給管	150,918	189,511	176,255	135,569	139,624	4,055	3.0%
	ソフトウェア	15,162	18,040	0	250	300	50	20.0%
	企業債償還金	394,647	372,308	351,349	327,555	308,960	△ 18,595	△ 5.7%
投資有価証券	0	0	0	0	500,000	500,000	皆増	
支出計	1,435,738	1,327,927	1,679,078	1,049,638	1,366,912	317,274	30.2%	
差引不足額	1,193,691	1,084,157	1,319,681	897,005	1,187,398	290,393	32.4%	
補填財源	過年度分損益勘定 留保資金	873	792	422	912	84,571	83,659	著増
	当年度分損益勘定 留保資金	1,183,818	1,074,365	1,051,259	896,093	939,827	43,734	4.9%
	減債積立金	2,000	2,000	80,000	0	49,000	49,000	皆増
	建設改良積立金	7,000	7,000	188,000	0	114,000	114,000	皆増
	計	1,193,691	1,084,157	1,319,681	897,005	1,187,398	290,393	32.4%
企業債残高	3,325,376	2,953,068	2,601,718	2,274,163	1,965,204	△ 308,959	△ 13.6%	

令和4年度決算の概況

【税抜：万円未満省略】

収益的収支

収入：84億6,425万円

ガス料金収入 75億9,229万円
補助金 3億6,670万円
長期前受金戻入 2億7,826万円
その他の収入 2億2,698万円

支出：81億3,017万円

原料ガス費 60億1,354万円
人件費 3億3,908万円
修繕費等 1億1,664万円
委託料等 4億545万円
支払利息 3,696万円
減価償却費等 12億1,848万円
収支差引額（利益） 3億3,407万円

資本的収支

収入：1億7,951万円

工事負担金 1億7,951万円
収支不足額 11億8,739万円

支出：13億6,691万円

建設改良費 5億5,795万円
企業債償還金 3億895万円
投資有価証券 5億円

項目	留保資金等	補填額※2
①過年度分 損益勘定留保資金	8,457万円	8,457万円
②当年度分 損益勘定留保資金※1	9億4,021万円	9億3,982万円
③積立金等	29億7,062万円	1億6,300万円
計	39億9,540万円	11億8,739万円

※1 減価償却費等から長期前受金戻入分の金額を除いた額

※2 資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額を補填する。

3 決算主要項目の内容

(1) 収益的収支

単位：千円

(収益的収入) 予算額	決算額	予算額と決算額の増減	予算額と決算額の増減の内訳				
			営業収益	営業雑収益	附帯事業収益	営業外収益	
9,801,151	9,245,129	△ 556,022	△ 427,609	△ 63,929	△ 244	△ 64,240	
(収益的支出) 予算額	決算額	不用額	不用額の内訳				
			営業費用	営業雑費用	附帯事業費用	営業外費用	予備費
9,171,180	8,858,924	312,256	179,331	60,466	1,827	69,632	1,000

※上記の表は、消費税及び地方消費税込みの金額としている。

①収益的収入

◇ガス販売量が前年度に比べ4.7%減少したものの、液化天然ガス輸入価格の上昇に伴い原料費調整額が増加したことにより、ガス売上は前年度に比べ21億591万円(38.4%)増となった。

また、令和5年1月使用分から国の「電気・ガス価格激変緩和対策事業」の補助金3億6,670万円を活用し、都市ガス料金を1㎡当たり30円値引きしており、令和4年度は2か月間で4億391万円(税込)の値引きを実施した。

単位：千円

項目	3年度決算	4年度決算	比較
ガス売上	5,486,379	7,592,296	2,105,917

○ガス契約区分別使用量実績

1) 戸数

単位：戸；件

契約区分	3年度		4年度		増減		増減率		構成比	
	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	3年度	4年度
一般契約	44,466	536,000	44,290	534,250	△ 176	△ 1,750	△0.4%	△0.3%	95.3%	95.2%
小型空調契約	89	1,073	88	1,060	△ 1	△ 13	△1.1%	△1.2%	0.2%	0.2%
空調契約	26	314	26	314	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
天然ガススタンド契約	1	12	1	12	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
時間帯別B契約	39	450	38	458	△ 1	8	△2.6%	1.8%	0.1%	0.1%
家庭用温水暖房契約	1,907	22,603	1,937	22,998	30	395	1.6%	1.7%	4.1%	4.2%
融雪契約	16	192	16	189	0	△ 3	0.0%	△1.6%	0.0%	0.0%
小型空調パッケージ契約	77	925	75	896	△ 2	△ 29	△2.6%	△3.1%	0.2%	0.2%
コーシエネレーション契約	6	72	6	72	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家庭用コーシエネレーション契約	31	317	33	387	2	70	6.5%	22.1%	0.1%	0.1%
大口契約	18	216	18	219	0	3	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%
合計	46,676	562,174	46,528	560,855	△ 148	△ 1,319	△0.3%	△0.2%	100.0%	100.0%

2) 使用量

単位：m³

契約区分	使用量		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用量		
	3年度	4年度			3年度	4年度	3年度	4年度	増減率
一般契約	19,667,812	18,423,956	△ 1,243,856	△6.3%	31.7%	31.2%	36.7	34.5	△6.0%
小型空調契約	940,157	925,987	△ 14,170	△1.5%	1.5%	1.6%	876.2	873.6	△0.3%
空調契約	873,433	872,504	△ 929	△0.1%	1.4%	1.5%	2,781.6	2,778.7	△0.1%
天然ガススタンド契約	7,084	3,567	△ 3,517	△49.6%	0.0%	0.0%	590.3	297.3	△49.6%
時間帯別B契約	4,665,250	5,210,287	545,037	11.7%	7.5%	8.8%	10,367.2	11,376.2	9.7%
家庭用温水暖房契約	1,678,201	1,555,842	△ 122,359	△7.3%	2.7%	2.6%	74.2	67.7	△8.8%
融雪契約	466,074	335,912	△ 130,162	△27.9%	0.8%	0.6%	2,427.5	1,777.3	△26.8%
小型空調パッケージ契約	1,765,711	1,682,704	△ 83,007	△4.7%	2.9%	2.8%	1,908.9	1,878.0	△1.6%
コーン・エネレーション契約	642,850	672,695	29,845	4.6%	1.0%	1.1%	8,928.5	9,343.0	4.6%
家庭用コーン・エネレーション契約	39,323	41,742	2,419	6.2%	0.1%	0.1%	124.0	107.9	△13.0%
大口契約	31,235,497	29,337,947	△ 1,897,550	△6.1%	50.4%	49.7%	144,608.8	133,963.2	△7.4%
合計	61,981,392	59,063,143	△ 2,918,249	△4.7%	100.0%	100.0%	110.3	105.3	△4.5%

○ガス用途区分別使用量・料金実績

1) 戸数

単位：戸；件

用途区分	3年度		4年度		増減		増減率		構成比	
	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	4年度
									3年度	4年度
家庭用	43,235	520,746	43,098	519,560	△ 137	△ 1,186	△0.3%	△0.2%	92.6%	92.6%
工業用	75	895	75	897	0	2	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%
商業用	2,645	31,877	2,635	31,764	△ 10	△ 113	△0.4%	△0.4%	5.7%	5.7%
官庁・学校用	721	8,656	720	8,634	△ 1	△ 22	△0.1%	△0.3%	1.5%	1.5%
合計	46,676	562,174	46,528	560,855	△ 148	△ 1,319	△0.3%	△0.2%	100.0%	100.0%

2) 使用量

単位：m³

用途区分	使用量		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用量		
	3年度	4年度			3年度	4年度	3年度	4年度	増減率
家庭用	18,177,453	16,935,534	△ 1,241,919	△6.8%	29.3%	28.7%	34.9	32.6	△6.6%
工業用	28,524,932	27,112,645	△ 1,412,287	△5.0%	46.0%	45.9%	31,871.4	30,225.9	△5.2%
商業用	5,445,718	5,304,671	△ 141,047	△2.6%	8.8%	9.0%	170.8	167.0	△2.2%
官庁・学校用	9,833,289	9,710,293	△ 122,996	△1.3%	15.9%	16.4%	1,136.0	1,124.7	△1.0%
合計	61,981,392	59,063,143	△ 2,918,249	△4.7%	100.0%	100.0%	110.3	105.3	△4.5%

3) 料金

単位：円

用途区分	料金		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用料		
	3年度	4年度			3年度	4年度	3年度	4年度	増減率
家庭用	2,206,028,357	2,753,102,891	547,074,534	24.8%	40.2%	36.2%	4,236	5,299	25.1%
工業用	1,907,097,164	2,901,115,898	994,018,734	52.1%	34.8%	38.2%	2,130,835	3,234,243	51.8%
商業用	519,629,647	718,292,975	198,663,328	38.2%	9.5%	9.5%	16,301	22,613	38.7%
官庁・学校用	853,623,694	1,219,784,037	366,160,343	42.9%	15.5%	16.1%	98,616	141,277	43.3%
合計	5,486,378,862	7,592,295,801	2,105,916,939	38.4%	100.0%	100.0%	9,759	13,537	38.7%

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
営 業 雑 収 益	183,673	179,593	△ 4,080

○年度末供給戸数 46,528 戸

令和4年度実績値

受注工事収益 174,272 千円

受注工事収益（修繕・その他） 5,312 千円

その他営業雑収益 9 千円

単位：件

	新設工事	改造工事	増設工事	撤去工事	その他	合 計
3年度	172	341	51	363	33	960
4年度	165	347	45	356	35	948
比 較	△ 7	6	△ 6	△ 7	2	△ 12

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
附 帯 事 業 収 益	5,056	4,887	△ 169

○液化石油ガス用途区分別使用量・料金実績

1) 戸数

単位：戸；件

用途区分	3年度		4年度		増 減		増 減 率		構 成 比	
	年度末 戸 数	年 間 延件数	年度末 戸 数	年 間 延件数	年度末 戸 数	年 間 延件数	年度末 戸 数	年 間 延件数	年度末 戸 数	
									3年度	4年度
家 庭 用	157	1,881	153	1,870	△ 4	△ 11	△2.5%	△0.6%	94.6%	94.4%
商 業 用	3	36	3	36	0	0	0.0%	0.0%	1.8%	1.9%
そ の 他	6	72	6	72	0	0	0.0%	0.0%	3.6%	3.7%
合 計	166	1,989	162	1,978	△ 4	△ 11	△2.4%	△0.6%	100.0%	100.0%

2) 使用量

単位：m³

用途区分	使 用 量		増 減	増減率	構 成 比		1 か月 1 戸 当 たり 使 用 量		
	3年度	4年度			3年度	4年度	3年度	4年度	増減率
			家 庭 用	11,491					
商 業 用	198	191	△ 7	△3.5%	1.7%	1.7%	5.5	5.3	△3.6%
そ の 他	6	10	4	66.7%	0.1%	0.1%	0.1	0.1	0.0%
合 計	11,695	11,077	△ 618	△5.3%	100.0%	100.0%	5.9	5.6	△5.1%

3) 料金

単位：円

用途区分	料 金		増 減	増減率	構 成 比		1 か月 1 戸 当 たり 使 用 料		
	3年度	4年度			3年度	4年度	3年度	4年度	増減率
家 庭 用	4,643,153	4,432,775	△ 210,378	△4.5%	96.9%	96.9%	2,468	2,370	△4.0%
商 業 用	85,730	82,770	△ 2,960	△3.5%	1.8%	1.8%	2,381	2,299	△3.4%
そ の 他	61,200	61,570	370	0.6%	1.3%	1.3%	850	855	0.6%
合 計	4,790,083	4,577,115	△ 212,968	△4.4%	100.0%	100.0%	2,408	2,314	△3.9%

- 年度末供給戸数 162 戸
 令和4年度実績値
 受注工事収益 108 千円
 ○附帯事業営業外収益
 長期前受金戻入 202 千円

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
営 業 外 収 益	351,174	687,476	336,302

○営業外収益の内訳

単位：千円

		3年度	4年度	比 較
受 取 利 息	預金利息	27	33	6
	貸付金利息	56	55	△ 1
	有価証券利息	0	997	997
	小 計	83	1,085	1,002
繰 入 金	児童手当	3,170	3,318	148
	小 計	3,170	3,318	148
補 助 金	電気・ガス価格激変緩和対策事業	0	366,704	366,704
	小 計	0	366,704	366,704
長 期 前 受 金 戻 入	長期前受補助金戻入	1,670	1,670	0
	長期前受工事負担金戻入	297,359	262,603	△ 34,756
	長期前受受贈財産評価額戻入	418	340	△ 78
	長期前受繰入金戻入	13,448	13,448	0
小 計		312,895	278,061	△ 34,834
雑 収 益	貸付料	197	123	△ 74
	下水道等受託収益	30,373	32,933	2,560
	補償修繕収益	1,023	2,716	1,693
	その他	3,433	2,536	△ 897
小 計		35,026	38,308	3,282
合 計		351,174	687,476	336,302

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
特 別 利 益	89	0	△ 89

○土地売却益の皆減

②収益的支出（中期経営計画主要事業は事業名に◎印）

◇液化天然ガス輸入価格の上昇により原料費調整額が増加したことから、原料ガス費が前年度に比べ25億6,032万円（74.1%）増となった。

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
原料ガス購入業務	3,453,211	6,013,540	2,560,329
経費内訳			
売上原価	5,048,390	事業者間精算費	965,150
【目的】			
都市ガスを安定的に供給するために原料ガスを確保する。			
【概要及び成果】			
ガス販売量の減少に伴いガス購入量が前年度比4.7%減少したものの、液化天然ガス輸入価格の上昇に伴い原料ガス費が大幅に増加したことから、事業費が増加した。			
単位：m ³			
	3年度	4年度	比較
ガス購入量	62,075,791	59,148,256	△ 2,927,535

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
供給所運転管理業務	11,943	12,940	997
経費内訳			
備用品費	2,782	保険料	204
修繕費	3,450	通信運搬費	1,469
動力費	202	委託料	2,100
光熱燃料費	527	手数料	177
使用ガス費	2,029		
【目的】			
ガス供給所の維持管理等の実施及び定期的な点検整備により、施設等の長期使用に努め、施設の更新需要の抑制を図る。			
【概要及び成果】			
定期的な点検整備を実施し、適正な運転管理に努めた。			
＜主な費用＞			
備用品費	付臭剤		2,721 千円
修繕費	南部ガス供給所ガス受入流量計基板交換工事費		1,040 千円
	春日山ガス供給所コンプレッサー設備改修工事費		847 千円
通信運搬費	各供給所専用回線使用料		904 千円
委託料	中郷ガス供給所電気計装設備点検整備委託料		2,100 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
供給施設維持管理業務	56,797	44,099	△ 12,698

経費内訳

報酬	1,741	使用ガス費	408
手当	358	賃借料	459
法定福利費	361	保険料	229
備用品費	1,162	通信運搬費	1,310
旅費交通費	56	委託料	14,100
修繕費	5,174	手数料	352
特別修繕引当金繰入額	13,000	印刷製本費	183
動力費	146	租税課金	79
光熱燃料費	2,237	固定資産除却費	2,744

【目的】

地区整圧器室、整圧器の維持管理等の実施及び定期的な点検整備により、施設等の長期使用に努め、施設の更新需要の抑制を図る。

【概要及び成果】

整圧器等施設の定期的な点検整備を実施し、適正な運転管理に努めた。

<主な費用>

報酬	会計年度任用職員 1人	1,720 千円
修繕費	各整圧器室建物修繕工事費	2,607 千円
委託料	整圧器分解点検業務委託料	3,431 千円
	中圧ガス導管防食状況調査業務委託料	3,050 千円
	春日山ガス供給所電気計装設備点検業務委託料	1,980 千円
	民地内他工事立会等業務委託料	530 千円
	旧北本町ガス供給所地下水水質調査業務委託料	132 千円
固定資産除却費	導管本支管撤去工事費	294 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
ガス管修繕業務	34,937	49,934	14,997
経費内訳			
備用品費	678	委託料	447
修繕費	48,669	手数料	2
光熱燃料費	3	印刷製本費	38
保険料	84	租税課金	13
【特定財源】 その他雑収益	615		
【目的】 ガス漏えい及び導管に係る事故の未然防止と拡大防止を図る。			
【概要及び成果】 ガス管の漏えいや急を要する他工事に係る支障移転に迅速に対応し、安定供給の継続を図った。 大瀧区新堀川架管修繕工事などにより、事業費が増加した。 本支管・供給管修理件数 16件（対前年度比 5件の減）			
＜主な費用＞			
修繕費	責任修繕工事費		30,880 千円
	大瀧区新堀川架管修繕工事費		5,555 千円
	責任修繕工事舗装本復旧費		8,791 千円
	補償修繕工事費		2,015 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
ガスメーター取替業務	84,568	71,747	△ 12,821
経費内訳			
備用品費	55	通信運搬費	287
修繕費	52,925	委託料	18,412
光熱燃料費	2	印刷製本費	66
【目的】 計量法に基づき、検定満期を迎えるガスメーターを取り替える。			
【概要及び成果】 検定満期を迎えるガスメーターの取替えを行った。 単価の高い中圧ガスメーターの取替個数が減少したため、事業費は減少した。 取替数 5,356個（対前年度比 57個の減）			
＜主な費用＞			
修繕費	取替用ガスメーター		52,792 千円
委託料	取替業務委託料		18,401 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
受注工事業務	178,167	174,316	△ 3,851
経費内訳			
報酬	1,320	通信運搬費	47
手当	275	委託料	1,169
法定福利費	267	手数料	10
備用品費	126	印刷製本費	36
修繕費	4,771	工事請負費	165,497
光熱燃料費	31	租税課金	7
賃借料	402	器具販売原価	333
保険料	25		
【特定財源】			
受注工事収益	174,316		
【目的】			
安全で安定した供給を行うための装置工事の施工に係る管理を行う。			
【概要及び成果】			
申込みのあった内管工事の設計審査及び竣工検査を実施するとともに、適正な施工となるよう指定工事業者に対して指導・監督を行った。			
＜主な費用＞			
報酬	会計年度任用職員 1人		1,320 千円
修繕費	受注修繕工事費		4,677 千円
委託料	工事受付システム維持管理費		1,147 千円
工事請負費	受注工事請負費		165,497 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
液化石油ガス販売事業	4,024	4,307	283
経費内訳			
液化石油ガス売上原価	2,607	委託料	207
備用品費	77	手数料	52
修繕費	791	印刷製本費	4
光熱燃料費	32	負担金及び補助	44
賃借料	48	雑費	27
保険料	5	減価償却費	303
通信運搬費	31	工事請負費	79
【特定財源】			
液化石油ガス売上	3,997	長期前受金戻入	202
液化石油ガス受注工事収益	108		
【目的】			
液化石油ガスを安全で安定的に供給する。			
【概要及び成果】			
液化石油ガス供給施設（大湊区）の維持管理業務を適正に行い、安全で安定的に液化石油ガスを供給した。			
販売量	11,077m ³ （対前年度比 618m ³ 、5.3%の減）		
供給戸数	162戸（対前年度比 4戸、2.4%の減）		

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎白ガス灯外内管対策	693	647	△ 46
経費内訳			
委託料	647		
【目的】			
<p>需要家の敷地に埋設された経年埋設内管（白ガス管）を耐震性・耐腐食性に優れたポリエチレン管へ入れ替えることで、ガス漏れ事故の防止及び耐震性の向上を図る。</p>			
【概要及び成果】			
<p>需要家の敷地に埋設された白ガス管の腐食性や地震に対する脆弱性について、戸別訪問により周知・説明するとともに、安全性の高いポリエチレン管への入替を勧めることにより、白ガス灯外内管※の削減に努めた。</p> <p>※灯外内管：道路境界からガスメーターまでのガス管 折衝件数 758件 改善件数 127件(撤去76件、入替51件)</p> <p><主な費用></p> <p>委託料 白ガス灯外内管折衝業務委託料 647 千円</p>			
【課題及び今後の方向性】			
<p>白ガス灯外内管の早期入替は対象需要家に認知されているものの、「入替費用を捻出できない」、「建物の更新時に合わせて入れ替える」などの理由から大きな進捗は見込めない状況である。</p> <p>今後は、これまでの定期保安調査に合わせた周知・説明を継続するとともに、ガス・水道本支管工事や排水設備接続工事との同時施工による経費縮減を説明するなど、機を捉えた戸別訪問を行う。また、さらに促進する方法についても調査、検討する。</p>			

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎ガス管漏えい検査	2,682	3,939	1,257
経費内訳			
委託料	3,939		
【目的】			
<p>道路に埋設されているガス管の漏えい検査を実施し、安全で安定した供給を確保する。</p>			
【概要及び成果】			
<p>ガス供給エリアを4ブロックに分割し、ガス事業法に基づき4年に1回の頻度で計画的に漏えい検査を行った。令和4年度は、春日区周辺区域の漏えい検査を実施した。</p> <p>(令和4年度実績 検査延長 135,814m 漏えい発見件数 0件)</p> <p><主な費用></p> <p>委託料 導管漏えい検査業務委託料 3,939 千円</p>			

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎ 定期保安調査	35,934	36,824	890

経費内訳

報酬	1,319	保険料	24
手当	275	通信運搬費	71
法定福利費	267	委託料	33,150
備用品費	729	印刷製本費	821
修繕費	113		
光熱燃料費	55		

【目的】

ガス事業法に基づく内管漏えい検査及び消費機器調査を定期的を実施して、漏えいや消費機器の不備による事故を未然に防止することで、需要家の安全なガス使用の確保を図る。

【概要及び成果】

ガス事業法に基づき、4年に1回の頻度で内管漏えい検査及び消費機器調査を実施した。

○定期保安調査件数

単位：件

項目	件数	不備発見数
戸建一般需要家検査	7,682	51
集合一般需要家検査	3,058	10
業務用需要家検査	318	6
メーター無し灯外内管検査	1,532	0
閉栓灯外内管検査	853	0
不在需要家（未調査）※	800	
合計	14,243	67

※未調査のうち基準日後に調査した件数 147件

<主な費用>

委託料 消費機器調査及び内管検査業務委託料 32,604 千円

【課題及び今後の方向性】

調査に当たっては、事前に各需要家と訪問日時を調整しており、不在需要家（未調査）については、調査依頼文書の郵送や料金情報にある管理人と連絡を取り調査を実施することで、未調査件数の削減を図る。

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
マッピングシステム整備業務	3,879	4,165	286
経費内訳			
報酬	1,539	旅費交通費	44
手当	321	委託料	1,938
法定福利費	323		
【目的】			
ガス水道管路情報システム（マッピングシステム）の管理を行い、ガス施設の維持管理及び将来計画に活用する。			
【概要及び成果】			
工事竣工に伴うガス管情報の修正などを行い、システムを適正に維持管理した。			
＜主な費用＞			
報酬	会計年度任用職員 1人		1,539 千円
委託料	マッピングシステムソフト保守業務委託料		1,938 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
都市ガスPR活動業務	11,125	15,693	4,568

経費内訳

報酬	4,997	光熱燃料費	71
手当	1,022	保険料	55
法定福利費	1,029	通信運搬費	210
備用品費	24	手数料	11
旅費交通費	144	租税課金	5
修繕費	84	需要開発費	8,041

【特定財源】

その他雑収益	235
--------	-----

【目的】

クリーンなエネルギーで供給安定性の高い都市ガスを幅広くPRすることで、新規の業務用及び家庭用の販売拡大を目指すとともに、既存需要家の都市ガス離れの防止を図る。

【概要及び成果】

家庭用ガス販売では、体感型ショールーム「ガステラス」におけるクッキング教室開催のほか、新築やリフォームを検討されるお客さまに都市ガスの利便性・安全性のPRや割引料金プランの提案等を行った。また、住宅販売会社等のサブユーザーへの営業活動、メディア・SNSを活用した情報発信、ガス水道フェア等各種PRイベントを実施した。

業務用ガス販売では、重油等の他燃料を使用している工場などに対する燃料転換やガス空調需要家の更新需要に向けた各種提案を行った。

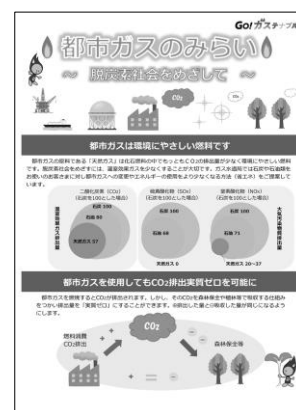
脱炭素社会に向けた取組としては、カーボンニュートラルガスの供給を継続するとともに、都市ガスの環境優位性や都市ガスが今後e-methane（イーメタン）に移行することを啓発するチラシ「都市ガスのみらい」をガス供給エリア全戸へ配布した。



クッキング教室



ガス水道局フェア（ガス水道局庁舎）



啓発チラシ

<主な費用>

報酬	会計年度任用職員 3人	4,907 千円
需要開発費	ガス水道フェア経費	3,957 千円
	ショールーム「ガステラス」運営費	407 千円
	ガス広告経費	2,316 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎都市ガス設置機器助成金	4,548	2,388	△ 2,160
経費内訳			
需要開発費	2,388		
【目的】			
人口減少やオール電化等の他燃料との競合などにより減少傾向にある家庭用ガス販売量維持のため、都市ガス機器設置に対し助成金を交付する。			
【概要及び成果】			
従来型のガス機器に比べ環境負荷を軽減する家庭用燃料電池「エネファーム」と高効率給湯器「エコジョーズ」の設置費の助成を行い、エネルギーの省力化を図るとともに、温水暖房等の利用による家庭用ガス販売量の拡大を図った。			
＜主な費用＞			
エネファーム	400千円/台 × 3台	= 1,200千円	(対前年度比 5台の減)
エコジョーズ	30千円/台 × 20台	= 600千円	(対前年度比 2台の減)
	(温水暖房機器と同時設置)		
エコジョーズ	20千円/台 × 21台	= 420千円	(対前年度比 16台の増)
	(暖房機能付き)		
【課題及び今後の方向性】			
人口減少に加え、オール電化住宅等の他燃料との競合などにより減少傾向にある家庭用ガス販売量維持のため、これまでの助成金制度に加え、ガス衣類乾燥機の設置費助成金制度を令和5年度に新設した。今後も都市ガス採用率の更なる向上や需要の拡大を図るため、引き続き機会を捉えて助成金制度の周知に努める。			

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較															
料金徴収委託業務	83,751	86,503	2,752															
経費内訳																		
備用品費	102	通信運搬費	7,089															
修繕費	168	委託料	77,970															
賃借料	1,036	手数料	138															
【特定財源】																		
その他雑収益	32,933																	
【目的】																		
民間ノウハウを活用することで、事務効率の向上とお客様サービスの充実を図る。																		
【概要及び成果】																		
<p>民間事業者に包括的な料金徴収業務を委託し、民間のノウハウを活用したことにより、収納率は中期経営計画の計画値99.5%に対し実績値99.7%となり、0.2ポイント上回ることができた。</p> <p>令和5年2月からスマートフォン決済を導入し、納付方法の選択肢を広げ、お客様サービスの充実を図った。</p>																		
<p><主な費用></p> <table> <tbody> <tr> <td>賃借料</td> <td>料金システムリース料</td> <td>1,036 千円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>料金納入令書郵送料</td> <td>7,001 千円</td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>料金等徴収業務委託料</td> <td>68,017 千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>料金口座振替及びコンビニエンスストア収納手数料</td> <td>7,084 千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>スマートフォン決済システム改修業務委託料</td> <td>315 千円</td> </tr> </tbody> </table>				賃借料	料金システムリース料	1,036 千円	通信運搬費	料金納入令書郵送料	7,001 千円	委託料	料金等徴収業務委託料	68,017 千円		料金口座振替及びコンビニエンスストア収納手数料	7,084 千円		スマートフォン決済システム改修業務委託料	315 千円
賃借料	料金システムリース料	1,036 千円																
通信運搬費	料金納入令書郵送料	7,001 千円																
委託料	料金等徴収業務委託料	68,017 千円																
	料金口座振替及びコンビニエンスストア収納手数料	7,084 千円																
	スマートフォン決済システム改修業務委託料	315 千円																

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
無線設備管理業務	190	144	△ 46
経費内訳			
修繕費	6	委託料	86
通信運搬費	41	手数料	11
【目的】 ガス漏えい対応や災害時などにおける緊急連絡用無線設備を適正に維持管理する。			
【概要及び成果】 基地局や端末無線機器の通信機能点検及び無線設備の保守管理を行った。			
＜主な費用＞			
委託料	無線設備定期点検業務委託料		86 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
局ネットワーク管理業務	4,113	4,442	329
経費内訳			
備用品費	21	通信運搬費	408
賃借料	150	委託料	3,863
【目的】 局のネットワーク、サーバ等について、セキュリティを含め適正に維持管理する。			
【概要及び成果】 局のネットワーク及びO A機器等の管理を適正に行った。			
＜主な費用＞			
委託料	電算処理運用支援業務委託料		2,698 千円
	局内イントラネット保守業務委託料		1,153 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
入札業務	2,268	2,447	179
経費内訳			
報酬	1,319	賃借料	15
手当	275	委託料	6
法定福利費	267	印刷製本費	4
備用品費	11	負担金及び補助	506
旅費交通費	44		
【目的】			
建設工事等について、透明性、公平性及び競争性の高い入札を適正かつ円滑に執行する。			
【概要及び成果】			
建設工事等を透明性の高い電子入札システムにより執行した。また、ガス水道本支管工事において、制限付き一般競争入札や「一抜け方式」を引き続き実施するなど、公平性及び競争性の確保に努めた。			
＜主な費用＞			
報酬	会計年度任用職員 1人		1,319 千円
負担金及び補助	電子入札システム使用負担金		483 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
庁舎維持管理業務	7,802	9,721	1,919
経費内訳			
備用品費	157	保険料	35
修繕費	329	通信運搬費	381
光熱燃料費	2,104	委託料	4,444
使用ガス費	908	手数料	1,021
賃借料	299	雑費	43
【特定財源】			
その他雑収益	34		
【目的】			
本局庁舎の適切な維持管理により執務環境を確保する。			
【概要及び成果】			
本局庁舎の施設及び設備の定期的な保守点検等を実施し、安全性を確保した。			
＜主な費用＞			
光熱燃料費	庁舎電気料		1,980 千円
委託料	庁舎維持管理業務委託料		2,478 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
経 理 業 務	2,819	2,982	163
経費内訳			
報酬	1,319	委託料	974
手当	275	印刷製本費	17
法定福利費	284	負担金及び補助	8
旅費交通費	105		
【目的】			
地方公営企業法を始めとする関係法令に基づき適正な会計処理を行うことにより、事業経営の健全性を維持する。			
【概要及び成果】			
上越市ガス水道事業会計規程に基づく経理処理を行うとともに、会計システムの適正な管理を行った。			
＜主な費用＞			
報酬	会計年度任用職員 1人		1,319 千円
委託料	企業会計システム保守業務委託料		974 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎ 職 員 研 修	455	833	378
経費内訳			
備用品費	91	手数料	55
旅費交通費	167	負担金及び補助	520
【目的】			
外部研修、内部研修を通じて職員の知識及び技術力の向上を図る。			
【概要及び成果】			
職員の技術や知識の向上・継承のため、保安勤務時や突発事故発生時に対応する実技研修や災害時における移動式ガス発生設備の設置研修などを実施した。また、職員に技術資格の取得を推奨するため、受験費用の一部助成を行った。			
＜主な費用＞			
旅費交通費	研修会旅費交通費		167 千円
負担金及び補助	研修会参加費等		520 千円
【課題及び今後の方向性】			
今後、業務経験の浅い職員の配置や、定年引上げに伴う職員の高齢化が見込まれることから、ガス事業を継続し、技術を継承していくため、研修カリキュラムを適宜検証し、効率的、効果的な研修を進めていく。			

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
その他営業費用	1,607,348	1,540,695	△ 66,653

経費内訳

報酬	1,720	賃借料	558
給料	147,387	保険料	1,053
手当	65,887	通信運搬費	71
賞与引当金繰入額	18,568	委託料	851
法定福利費	45,928	手数料	43
法定福利費引当金繰入額	3,693	印刷製本費	67
厚生福利費	348	食糧費	1
退職給付引当金	27,547	交際費	17
備用品費	4,242	負担金及び補助	3,274
旅費交通費	207	貸倒引当金繰入額	68
修繕費	194	雑費	241
光熱燃料費	349	固定資産除却費	10,675
使用ガス費	168	減価償却費	1,207,538

【概要及び成果】

法定耐用年数の経過に伴い、減価償却費が減少したことから、事業費が減少した。

<主な費用>

職員給与費（営業費用に係る職員分）

単位：千円

	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
3年度	37人	147,713	77,363	25,763	47,198	298,037
4年度	37人	147,387	84,097	27,547	49,393	308,424
比較	0人	△ 326	6,734	1,784	2,195	10,387

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較			
その他営業雑費用	9,345	9,324	△ 21			
経費内訳						
給料	4,245	法定福利費	1,540			
手当	2,840	法定福利費引当金繰入額	114			
賞与引当金繰入額	572	厚生福利費	13			
【特定財源】						
受注工事収益	5,277					
【概要及び成果】						
<p>申込みのあった内管工事の設計審査及び竣工検査を実施するとともに、適正な施工となるよう指定工事業者に対して指導・監督を行った。</p> <p><主な費用></p> <p>職員給与費（営業雑費用に係る職員分）</p>						
単位：千円						
	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
3年度	1人	4,245	3,442	0	1,640	9,327
4年度	1人	4,245	3,412	0	1,654	9,311
比較	0人	0	△ 30	0	14	△ 16

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
支払利息	42,370	36,969	△ 5,401
経費内訳			
企業債利息	36,969		
【概要及び成果】			
<p>中長期的な経営収支見通しに基づき、内部留保資金を活用し企業債の新規発行を行わないことにより、支払利息額が減少した。</p> <p><支払先></p> <p>財務省 16,183 千円</p> <p>地方公共団体金融機構 20,786 千円</p>			

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
その他営業外費用	1,018	1,574	556
経費内訳			
雑支出	1,574		
【概要及び成果】			
＜主な費用＞			
雑支出	消費税納税計算に伴う支出		1,574 千円

(2) 資本的収支

単位：千円

(資本的収入) 予算額	決算額	翌年度繰越 財源額	予算額と決 算額の増減	予算額と決算額の増減の内訳	
				工事負担金	
228,793	179,959	6,373	△ 48,834	△ 48,834	
(資本的支出) 予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	不用額の内訳	
				建設改良費	企業債償還金
1,608,765	1,413,593	21,169	174,003	174,000	3

※上記の表は、消費税及び地方消費税込みの金額としている。

①資本的収入

単位：千円

項目	3年度決算	4年度決算	比較
工事負担金	152,393	179,514	27,121

○下水道工事等に伴う移設補償費及び団地開発に伴う導管布設負担金

単位：千円

区分	3年度	4年度	比較
区画整理・団地	16,369	3,227	△ 13,142
一般他工事関連	13,887	26,937	13,050
下水道関連	121,887	148,125	26,238
供給管関連	250	1,225	975
合計	152,393	179,514	27,121

②資本的支出（中期経営計画主要事業は事業名に◎印）

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較												
◎ 供給施設更新事業	11,143	22,600	11,457												
経費内訳															
土地	4,017	機械装置	6,201												
建物	217	導管本支管	12,165												
【目的】															
老朽化したガス供給施設の更新を行い、安全で安定した供給を図る。															
【概要及び成果】															
<p>アセットマネジメント（資産管理）で設定した計画耐用年数を基に施設の更新を行った。 また、柿崎区明治橋の架け替えに伴い、ガス管網の再整備が必要となったことから、馬正面整圧器室を移設した。</p> <p><主な費用></p> <table border="0"> <tr> <td>土地</td> <td>柿崎区馬正面地内整圧器室移設用地取得費</td> <td>4,017 千円</td> </tr> <tr> <td>機械装置</td> <td>春日山ガス供給所圧力伝送装置等更新工事費</td> <td>2,620 千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>西本町3丁目整圧器室フィルター改修工事費</td> <td>1,780 千円</td> </tr> <tr> <td>導管本支管</td> <td>柿崎区馬正面地内整圧器室移設工事費</td> <td>12,165 千円</td> </tr> </table>				土地	柿崎区馬正面地内整圧器室移設用地取得費	4,017 千円	機械装置	春日山ガス供給所圧力伝送装置等更新工事費	2,620 千円		西本町3丁目整圧器室フィルター改修工事費	1,780 千円	導管本支管	柿崎区馬正面地内整圧器室移設工事費	12,165 千円
土地	柿崎区馬正面地内整圧器室移設用地取得費	4,017 千円													
機械装置	春日山ガス供給所圧力伝送装置等更新工事費	2,620 千円													
	西本町3丁目整圧器室フィルター改修工事費	1,780 千円													
導管本支管	柿崎区馬正面地内整圧器室移設工事費	12,165 千円													
【課題及び今後の方向性】															
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ガス事業施設整備計画に基づき、更新時期を迎えたガス施設を計画的に更新する。更新に当たっては、計画耐用年数による更新を基本とするとともに、管網整備状況等に合わせて効率的な施設配置となるよう努める。 </div>															

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較			
設計業務	6,594	8,035	1,441			
経費内訳						
導管本支管	8,035					
【目的】						
ガス本支管工事の適切な設計図書を作成する。						
【概要及び成果】						
<p>CAD設計積算システムを使用して設計積算を行うとともに、設計業務の一部を委託により実施した。</p> <p><主な費用></p> <table border="0"> <tr> <td>導管本支管</td> <td>本支管工事設計業務委託料</td> <td>5,216 千円</td> </tr> </table>				導管本支管	本支管工事設計業務委託料	5,216 千円
導管本支管	本支管工事設計業務委託料	5,216 千円				

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
その他建設改良費	1,031,901	1,336,277	304,376

経費内訳

工具器具備品	8,341	ソフトウェア	300
ガスメーター	12,183	企業債償還金	308,960
導管本支管	374,028	投資有価証券	500,000
導管供給管	132,465		

【特定財源】

工事負担金	179,514
-------	---------

【概要及び成果】

導管本支管工事費は、水道管更新工事に合わせたガス管入替工事等の減少に伴い、令和3年度に比べ減少した。

また、内部留保資金の有効活用を図るため、資金の一部を大口定期預金に比べ金利が有利な債券で運用したことから、投資有価証券が増加した。

<主な費用>

職員給与費（設計監督業務に係る職員分）

単位：千円

	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
3年度	10人	38,368	23,670	0	12,969	75,007
4年度	10人	39,478	24,474	0	13,444	77,396
比較	0人	1,110	804	0	475	2,389

工具器具備品	事務用パソコン18台更新	2,440 千円
導管本支管	下水道関連工事など導管本支管工事費 布設延長 L=3,346m	306,674 千円
企業債償還金	財務省	129,173 千円
	地方公共団体金融機構	179,787 千円
投資有価証券	債券購入費	500,000 千円

4 第2次ガス事業中期経営計画との比較

業務指標名	単位	計画	決算	比較	計画 対比	増減理由
白ガス灯外内管 残存率	%	9.8	9.4	△ 0.4	↑	灯外内管に白ガス管を使用した建物の建替や解体に伴い、白ガス管灯外内管需要家の件数が減少したことから、計画値を上回った。
職員資格取得度	件/人	1.83	2.32	0.49	↑	職員へ資格取得を奨励するとともに、ガス水道技術の向上に寄与する技術資格取得に係る助成措置を継続して実施したこと及び職員構成の変動により、計画値を上回った。
家庭用選択契約 獲得件数	件	100	55	△ 45	↓	オール電化等の他燃料との競合によるガス採用率の低下やガス機器納期遅延等で設置台数が減少したことから、計画値を下回った。
家庭用1戸1月当たり ガス販売量	m ³ /件	37.0	32.6	△ 4.4	↓	平均気温が平年値に比べ高く推移したことによる給湯・暖房需要の減少や節ガス意識の高まりにより、ガス販売量が減少したことから、計画値を下回った。
大口契約、業務用 選択契約獲得件数	件	5	2	△ 3	↓	新規需要の獲得のため継続的に営業活動を行ったが、物価の高騰や企業の生産活動の停滞により新たな設備投資や燃料転換の需要が少なかったことから、計画値を下回った。

業務指標名	単位	計画	決算	比較	計画 対比	増減理由
損益勘定所属職員 1人当たりガス販売量	千m ³ /人	1,567	1,554	△ 13	↓	ガス販売量が減少したことから、計画値を下回った。
経常収支比率	%	106.2	104.1	△ 2.1	↓	計画に対して、液化天然ガス輸入価格の上昇により、ガス売上及び原料ガス費が増加したが、ガス販売量が減少したことから、計画値を下回った。
ガス売上に対する 企業債利息割合	%	0.7	0.5	△ 0.2	↑	企業債利息は計画どおり推移しており、ガス売上が液化天然ガス輸入価格の上昇により増加したことから、計画値を上回った。
ガス売上に対する 企業債残高割合	%	36.5	25.9	△ 10.6	↑	企業債残高は計画どおり推移しており、ガス売上が液化天然ガス輸入価格の上昇により増加したことから、計画値を上回った。
収納率	%	99.5	99.7	0.2	↑	口座振替を推進するなど料金の確実な納付を促すほか、分割納付や供給停止処分など、個別の状況に応じた収納対策を継続的に実施したことから、計画値を上回った。

※計画対比： ↑ 計画を上回っている ↓ 計画を下回っている

<参考> 第2次ガス事業中期経営計画業務指標による評価

第2次計画に登載した業務指標の達成状況は、全12項目のうち、達成は9項目、未達成は3項目となった。未達成となった理由は以下のとおりである。

- ・「家庭用選択契約獲得件数」は、オール電化等の他燃料との競合により新築時都市ガス採用率が減少傾向にあることから未達成となった。
- ・「家庭用1戸1月当たりガス販売量」は、1世帯の人数が少ない戸建て住宅やアパートが増えていることなどから、1戸当たりのガス使用量が伸び悩み、未達成となった。
- ・「経常収支比率」は、計画値よりも販売量が減少したことに伴い、料金収入が減少したことなどにより未達成となる年度が多くあったが、毎年度において純利益を計上した。

業務指標	単位	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	達成状況
経年管更新率	%	計画	52.8	70.0	81.7	90.8	—	—	—	—	達成
		実績	50.3	77.1	94.4	100.0	—	—	—	—	
管路耐震化率	%	計画	66.2	66.8	67.3	67.9	—	—	—	—	達成
		実績	66.6	67.4	68.0	68.5	—	—	—	—	
白ガス灯外内管残存率	%	計画	12.9	12.5	12.1	11.7	10.7	10.4	10.1	9.8	達成
		実績	12.6	11.9	11.4	10.9	10.3	10.0	9.6	9.4	
職員資格取得度	件/人	計画	1.91	1.91	1.92	1.90	2.01	1.93	1.89	1.83	達成
		実績	2.01	1.92	2.05	2.15	2.25	2.29	2.30	2.32	
家庭用選択契約獲得件数	件	計画	130	130	130	130	100	100	100	100	未達成
		実績	99	86	78	60	70	99	54	55	
家庭用1戸1月当たりガス販売量	m ³ /件	計画	41.5	39.7	39.7	39.7	37.0	37.0	37.0	37.0	未達成
		実績	39.2	36.6	38.2	35.4	34.5	35.7	34.9	32.6	
大口契約、業務用選択契約獲得件数	件	計画	3	3	3	4	4	4	4	5	達成
		実績	3	6	7	6	30	3	2	2	
損益勘定所属職員1人当たりガス販売量	千m ³ /人	計画	1,482	1,408	1,433	1,486	1,551	1,583	1,575	1,567	達成
		実績	1,445	1,482	1,609	1,567	1,548	1,632	1,631	1,554	
経常収支比率	%	計画	102.6	102.3	102.3	103.4	104.0	105.0	105.6	106.2	未達成
		実績	100.9	100.9	103.9	102.2	103.0	101.5	106.8	104.1	
ガス売上に対する企業債利息割合	%	計画	1.5	1.4	1.2	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	達成
		実績	1.6	1.6	1.3	1.1	1.0	1.0	0.8	0.5	
ガス売上に対する企業債残高割合	%	計画	77.5	71.4	64.9	58.5	53.6	47.6	41.9	36.5	達成
		実績	82.6	83.0	69.2	59.8	53.7	53.5	41.5	25.9	
収納率	%	計画	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	達成
		実績	99.6	99.0	99.1	99.7	99.7	99.7	99.6	99.7	

※評価基準について

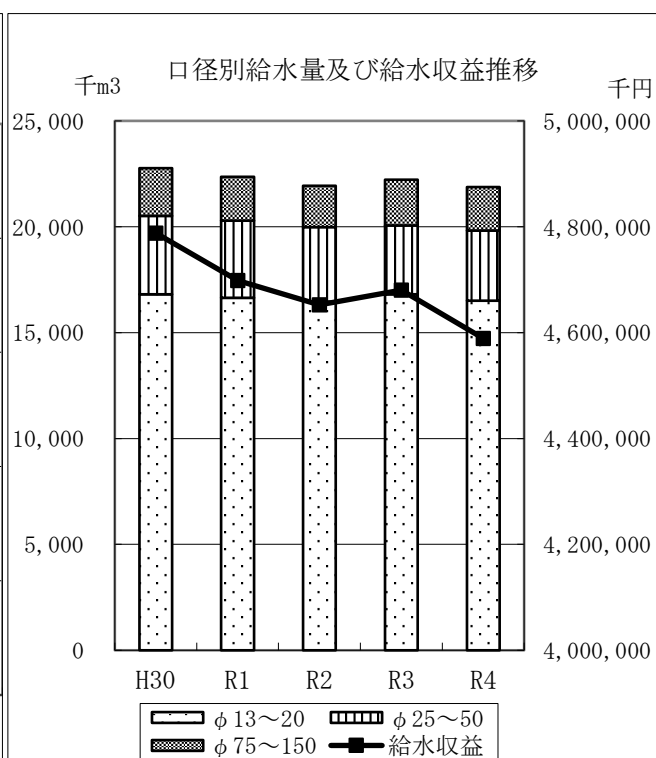
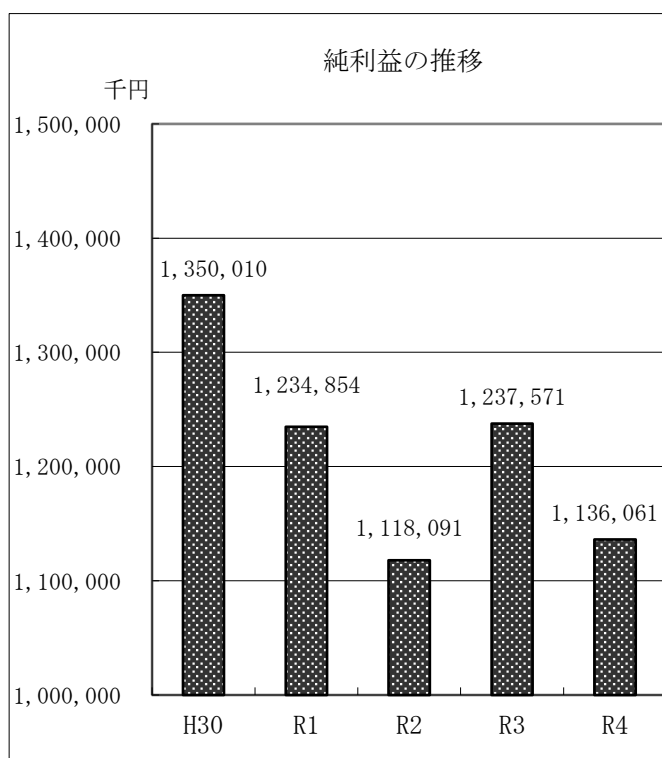
- ・経年管更新率、管路耐震化率、白ガス灯外内管残存率は、最終年度で目標に達していることから評価は「達成」とした。
- ・ガス売上に対する企業債利息割合・企業債残高割合は、ガス売上の変動に影響されるが、計画どおりに企業債利息・企業債残高が減少していることから評価は「達成」とした。
- ・上記以外の指標は、過半数の年度で達成した場合に評価は「達成」とした。

所管委員会	農政建設常任委員会
関係案件	議案第73号
提出課	経営企画課

令和4年度上越市水道事業会計決算の概要

※以下の金額は、消費税及び地方消費税抜きの金額としている。

- 有収水量は、人口減少や物価高騰に伴う節水意識の向上などから、家庭用が29.7万³m³（1.8%）、官庁・学校用が10.5万³m³（5.6%）、商業用が5.6万³m³（2.6%）、工業用が3.2万³m³（1.9%）それぞれ減少し、全体では前年度に比べ48.5万³m³（2.2%）の減となった。
- 収益的収支では、人口減少の影響などにより家庭用を中心に有収水量が減少したことから、給水収益は9,125万円（1.9%）減少したほか、固定資産除却費の減少に伴い、長期前受金戻入が7,537万円（5.8%）減少した。
支出では、広域施設水道管の修繕や城山浄水場P C配水池防水補修工事を実施したことにより修繕費が8,105万円（33.7%）増加した一方で、管路の除却延長の減少により固定資産除却費が1億7,441万円（68.3%）、企業債新規借入れの抑制に伴い支払利息が2,450万円（9.8%）減少した結果、当年度純利益は前年度に比べ1億150万円（8.2%）減の11億3,606万円となった。
- 資本的収支では、国の交付金事業を活用し、地震災害等における断水被害の影響が大きい基幹管路の耐震化を優先的に進めた結果、基幹管路耐震適合率は39.2%となった。
また、城山浄水場大規模改修事業の詳細設計が完了し、令和5年度から改修工事に着手する準備を進めるとともに、前年度から引き続き、大規模改修工事中の配水量を確保するため、和田浄水場計装設備更新工事を行ったほか、正善寺浄水場の脱水機分解点検を実施し安定供給の確保に努めた。
- 経営面では、将来にわたり安全で安定した水道水の供給と健全な経営を維持していくため、令和5年度以降の水道事業の経営指針・実施計画として「上越市第3次水道事業中期経営計画」を策定した。



1 業務の概要

◇有収水量は、人口減少の影響などにより家庭用を中心に有収水量が減少し、前年度に比べ48.5万³m (2.2%) 減少した。

(水道事業)

区 分			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比	
								増減数	増減率
1	行政区域内人口	人	192,068	190,042	188,382	185,892	184,082	△ 1,810	△ 1.0%
2	給水区域内人口	人	192,083	190,061	188,405	185,915	184,099	△ 1,816	△ 1.0%
3	給水人口	人	192,040	190,033	188,378	185,889	184,072	△ 1,817	△ 1.0%
4	給水戸数	戸	85,173	85,790	86,010	86,475	86,546	71	0.1%
5	普及率	%	99.98	99.99	99.99	99.99	99.99	0.00	-
6	施設能力	m ³ /日	137,141.0	135,661.0	135,661.0	135,661.0	135,661.0	0.0	0.0%
7	年間配水量	m ³	24,253,747	23,407,866	23,458,589	23,363,780	23,094,593	△ 269,187	△ 1.2%
8	年間有収水量	m ³	22,536,311	22,058,531	22,017,846	21,977,554	21,492,261	△ 485,293	△ 2.2%
9	一日最大配水量 (一日最大月日)		79,693 (7/24)	74,089 (8/14)	70,633 (9/3)	71,342 (8/5)	83,857 (1/27)	12,515	17.5%
10	一日平均配水量	m ³	66,449	63,956	64,270	64,010	63,273	△ 737	△ 1.2%
11	一日平均有収水量	m ³	61,743	60,269	60,323	60,212	58,883	△ 1,329	△ 2.2%
12	有収率	%	92.92	94.24	93.86	94.07	93.06	△ 1.01	-
13	職員数	人	85	85	83	84	83	△ 1	△ 1.2%

(用水供給事業)

区 分			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比	
								増減数	増減率
1	施設能力	m ³ /日	3,060	3,060	3,060	3,060	3,060	0	0.0%
2	年間配水量	m ³	752,478	730,950	806,455	788,705	780,623	△ 8,082	△ 1.0%
3	年間有収水量	m ³	752,478	730,950	806,455	788,705	780,623	△ 8,082	△ 1.0%
4	一日最大配水量 (一日最大月日)	m ³	2,606 (7/24)	2,533 (9/5)	2,868 (6/23)	3,365 (1/8)	2,952 (1/27)	△ 413	△ 12.3%
5	一日平均配水量	m ³	2,062	1,997	2,209	2,161	2,139	△ 22	△ 1.0%
6	一日平均有収水量	m ³	2,062	1,997	2,209	2,161	2,139	△ 22	△ 1.0%
7	有収率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	0.00	-

2 決算の概要

(1) 収益的収支

単位：千円

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
収	営業収益	4,788,191	4,698,294	4,652,565	4,680,563	4,589,309	△ 91,254	△ 1.9%
	給水収益	4,788,191	4,698,294	4,652,565	4,680,563	4,589,309	△ 91,254	△ 1.9%
	営業雑収益	12,694	14,677	12,825	12,052	9,762	△ 2,290	△ 19.0%
	営業外収益	1,639,272	1,613,724	1,502,611	1,483,697	1,413,679	△ 70,018	△ 4.7%
	繰入金	136,984	127,398	60,465	57,760	55,175	△ 2,585	△ 4.5%
	加入金	50,640	58,784	48,068	42,686	42,030	△ 656	△ 1.5%
	長期前受金戻 の他	1,093,409	1,085,721	1,058,190	1,058,746	998,961	△ 59,785	△ 5.6%
	営業外収益 広域施設 営業外収益	89,696	82,225	84,283	89,715	97,112	7,397	8.2%
	268,543	259,596	251,605	234,790	220,401	△ 14,389	△ 6.1%	
	用水供給事業収益	89,780	88,623	92,369	89,577	88,395	△ 1,182	△ 1.3%
入	用水供給 営業収益	74,752	74,095	78,288	76,436	76,061	△ 375	△ 0.5%
	用水供給 営業外収益	15,028	14,528	14,081	13,141	12,334	△ 807	△ 6.1%
	特別利益	12	4,226	0	181	2,580	2,399	著増
収入計	6,529,949	6,419,544	6,260,370	6,266,070	6,103,725	△ 162,345	△ 2.6%	
支	営業費用	4,764,875	4,814,033	4,799,853	4,709,963	4,674,580	△ 35,383	△ 0.8%
	職員給与費	492,875	530,815	543,041	524,569	530,891	6,322	1.2%
	(うち退職給付費)	(11,028)	(41,255)	(42,118)	(37,823)	(40,756)	(2,933)	(7.8%)
	修繕費	152,983	138,882	154,179	175,391	247,600	72,209	41.2%
	動力費	96,406	84,327	77,102	79,155	96,801	17,646	22.3%
	薬品費	15,664	16,823	18,515	15,628	16,252	624	4.0%
	委託料	264,648	259,735	285,086	284,608	303,238	18,630	6.5%
	共同施設 管理分担費	38,576	51,317	36,069	30,264	23,481	△ 6,783	△ 22.4%
	減価償却費	2,264,945	2,268,135	2,277,903	2,268,202	2,291,500	23,298	1.0%
	広域施設 営業費用	1,070,460	1,086,934	1,015,700	978,476	978,471	△ 5	△ 0.0%
出	その 営業費用	368,318	377,065	392,258	353,670	186,346	△ 167,324	△ 47.3%
	営業雑費用	11,294	9,960	9,309	9,850	6,401	△ 3,449	△ 35.0%
	営業外費用	326,916	297,468	274,139	252,129	227,983	△ 24,146	△ 9.6%
	支払利息	274,115	254,526	234,959	215,202	195,522	△ 19,680	△ 9.1%
	その 営業外費用	7,235	1,703	2,284	4,444	4,591	147	3.3%
広域施設 営業外費用	45,566	41,239	36,896	32,483	27,870	△ 4,613	△ 14.2%	

区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比	
							増減数	増減率
支 出	用水供給事業費用	62,480	63,160	58,920	56,557	56,342	△ 215	△ 0.4%
	用水供給費用	59,930	60,852	56,853	54,739	54,782	43	0.1%
	用水供給費用	2,550	2,308	2,065	1,818	1,560	△ 258	△ 14.2%
	用水供給費用	0	0	2	0	0	0	0.0%
	特別損失	14,374	69	58	0	2,358	2,358	皆増
支 出 計		5,179,939	5,184,690	5,142,279	5,028,499	4,967,664	△ 60,835	△ 1.2%
収支差引（純損益）		1,350,010	1,234,854	1,118,091	1,237,571	1,136,061	△ 101,510	△ 8.2%

（2）資本の収支

単位：千円

区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比	
							増減数	増減率
収 入	企 業 債	200,000	200,000	200,000	200,000	0	△ 200,000	皆減
	補 助 金	194,934	242,988	229,046	171,787	99,938	△ 71,849	△ 41.8%
	工 事 負 担 金	374,562	376,938	417,561	346,103	387,567	41,464	12.0%
	繰 入 金	112,380	110,705	112,901	116,722	117,935	1,213	1.0%
	繰 入 金	108,730	108,423	112,901	116,722	117,935	1,213	1.0%
	広域施設 繰入金	3,650	2,282	0	0	0	0	0.0%
	固 定 資 産 入 売却収入	10,537	310	94,930	49	939	890	著増
	用 水 供 給 入 資本的収入	204	128	2	0	266	266	皆増
	用 水 供 給 入 工事負担金	0	0	0	0	266	266	皆増
	用 水 供 給 入 繰入金	204	128	0	0	0	0	0.0%
用 水 供 給 入 固定売却	0	0	2	0	0	0	0.0%	
収 入 計		892,617	931,069	1,054,440	834,661	606,645	△ 228,016	△ 27.3%

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
支	建設改良費	2,262,569	2,320,728	2,672,288	2,354,390	1,940,229	△ 414,161	△ 17.6%
	(うち職員給与費)	(91,349)	(87,886)	(92,954)	(92,954)	(92,510)	(△ 444)	(△ 0.5%)
	土地	0	973	3,927	617	1,150	533	86.4%
	建物	43,409	83,597	511,447	10,007	1,522	△ 8,485	△ 84.8%
	構築物	255,579	90,994	32,043	110,515	112,147	1,632	1.5%
	機械装置	112,414	58,709	229,567	177,722	128,889	△ 48,833	△ 27.5%
	車両運搬具	2,347	6,746	542	2,541	2,985	444	17.5%
	工具器具備品	3,877	6,750	22,961	16,088	10,290	△ 5,798	△ 36.0%
	水道メーター	3,798	4,048	3,487	3,046	2,533	△ 513	△ 16.8%
	導管本支管	1,497,574	1,743,985	1,582,727	1,710,926	1,305,097	△ 405,829	△ 23.7%
	導管給水管	287,742	289,853	268,386	266,820	271,936	5,116	1.9%
	導水管	15,929	3,343	8,460	0	0	0	0.0%
	ソフトウェア	30,618	24,736	0	3,190	300	△ 2,890	△ 90.6%
広域施設設備	9,282	6,994	8,741	52,918	103,380	50,462	95.4%	
出	企業債償還金	1,076,928	1,090,757	1,111,893	1,133,295	1,140,523	7,228	0.6%
	企業債償還金	891,198	903,382	920,187	937,132	942,516	5,384	0.6%
	広域施設企業債償還金	185,730	187,375	191,706	196,163	198,007	1,844	0.9%
	用水供給	10,914	10,879	11,218	13,940	16,867	2,927	21.0%
	資本的支出	519	392	489	2,962	5,786	2,824	95.3%
	建設改良費	10,395	10,487	10,729	10,978	11,081	103	0.9%
用水供給企業債償還金								
支出計	3,350,411	3,422,364	3,795,399	3,501,625	3,097,619	△ 404,006	△ 11.5%	
差引不足額		2,457,794	2,491,295	2,740,959	2,666,964	2,490,974	△ 175,990	△ 6.6%
		(2,501,194)	(2,542,083)	(2,791,021)	(2,708,993)	(2,532,031)	(△ 176,962)	(△ 6.5%)
補填財源	過年度分損益勘定留保資金	161	125,924	144,463	159,696	16,802	△ 142,894	△ 89.5%
	当年度分損益勘定留保資金	1,804,033	1,808,159	1,749,558	1,687,297	1,732,229	44,932	2.7%
	減債積立金	286,000	249,000	341,000	345,000	313,000	△ 32,000	△ 9.3%
	建設改良積立金	411,000	359,000	556,000	517,000	470,000	△ 47,000	△ 9.1%
	計	2,501,194	2,542,083	2,791,021	2,708,993	2,532,031	△ 176,962	△ 6.5%
企業債残高	15,774,441	14,873,198	13,950,576	13,006,302	11,854,698	△ 1,151,604	△ 8.9%	

※差引不足額下段の括弧書は、特定収入（工事負担金等）分の消費税及び地方消費税納税計算後の不足額

令和4年度決算の状況

【税抜：万円未満省略】

収益的収支

収入：61億372万円

水道料金収入 45億8,930万円
長期前受金戻入 12億2,946万円
その他の収入 2億8,496万円

支出：49億6,766万円

人件費 6億1,174万円
修繕費 3億2,135万円
動力・薬品費 2億302万円
委託料等 6億2,352万円
支払利息 2億2,489万円
減価償却費等 29億8,311万円
収支差引額（利益） 11億3,606万円

資本的収支

収入：6億664万円

補助金 9,993万円
工事負担金 3億8,783万円
繰入金 1億1,793万円
固定資産売却収入 93万円
収支不足額 24億9,097万円

支出：30億9,761万円

建設改良費 19億4,601万円
企業債償還金 11億5,160万円

項目	留保資金等	補填額※2
①過年度分 損益勘定留保資金	1億6,806万円	1,680万円
②当年度分 損益勘定留保資金※1	17億5,365万円	16億9,117万円
③積立金等	115億8,306万円	7億8,300万円
計	135億477万円	24億9,097万円

※1 減価償却費等から長期前受金戻入分の金額を除いた額
 ※2 資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額を補填する。

3 決算主要項目の内容

(1) 収益的収支

単位：千円

(収益的収入) 予 算 額	決 算 額	予算額と決算額の増減	予算額と決算額の増減の内訳					
			営業収益	営業雑収益	営業外収益	用水供給事業収益	特別利益	
6,695,516	6,581,028	△ 114,488	△ 76,017	△ 871	△ 41,457	1,259	2,598	
(収益的支出) 予 算 額	決 算 額	不 用 額	不 用 額 の 内 訳					
			営業費用	営業雑費用	営業外費用	用水供給事業費用	特別損失	予備費
5,503,171	5,311,405	191,766	187,492	764	4	2,505	1	1,000

※上記の表は、消費税及び地方消費税込みの金額としている。

①収益的収入

◇有収水量は前年度比48.5万 m^3 (2.2%) 減少し、給水収益は1.9%の減となった。

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
給 水 収 益	4,680,563	4,589,309	△ 91,254

○水道口径別使用量・料金実績

1) 戸数

単位：戸；件

口径別	3年度		4年度		増 減		増 減 率		構 成 比	
	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	
									3年度	4年度
13mm	46,465	563,591	46,042	558,855	△ 423	△ 4,736	△0.9%	△0.8%	53.7%	53.2%
20mm	36,967	441,217	37,474	447,839	507	6,622	1.4%	1.5%	42.8%	43.3%
25mm	1,940	23,342	1,938	23,332	△ 2	△ 10	△0.1%	△0.0%	2.3%	2.2%
30mm	341	4,066	328	3,975	△ 13	△ 91	△3.8%	△2.2%	0.4%	0.4%
40mm	465	5,578	467	5,600	2	22	0.4%	0.4%	0.5%	0.6%
50mm	179	2,199	180	2,157	1	△ 42	0.6%	△1.9%	0.2%	0.2%
75mm	111	1,368	110	1,365	△ 1	△ 3	△0.9%	△0.2%	0.1%	0.1%
100mm	3	42	3	36	0	△ 6	0.0%	△14.3%	0.0%	0.0%
150mm	4	48	4	48	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	86,475	1,041,451	86,546	1,043,207	71	1,756	0.1%	0.2%	100.0%	100.0%

2) 使用量

単位： m^3

口径別	使 用 量		増 減	増減率	構 成 比		1 か 月 1 戸 当 たり 使 用 量		
	3年度	4年度			3年度	4年度	3年度	4年度	増減率
13mm	7,464,996	7,230,903	△ 234,093	△3.1%	34.0%	33.6%	13.2	12.9	△2.3%
20mm	9,046,005	8,979,696	△ 66,309	△0.7%	41.2%	41.8%	20.5	20.1	△2.0%
25mm	839,402	833,646	△ 5,756	△0.7%	3.8%	3.9%	36.0	35.7	△0.8%
30mm	419,211	398,382	△ 20,829	△5.0%	1.9%	1.9%	103.1	100.2	△2.8%
40mm	1,095,540	1,067,243	△ 28,297	△2.6%	5.0%	5.0%	196.4	190.6	△3.0%
50mm	956,849	926,233	△ 30,616	△3.2%	4.3%	4.3%	435.1	429.4	△1.3%
75mm	1,967,290	1,897,145	△ 70,145	△3.6%	8.9%	8.8%	1,438.1	1,389.8	△3.4%
100mm	57,155	52,927	△ 4,228	△7.4%	0.3%	0.2%	1,360.8	1,470.2	8.0%
150mm	131,106	106,086	△ 25,020	△19.1%	0.6%	0.5%	2,731.4	2,210.1	△19.1%
合 計	21,977,554	21,492,261	△ 485,293	△2.2%	100.0%	100.0%	21.1	20.6	△2.4%

3) 料金

単位：円

口径別	料 金		増 減	増減率	構 成 比		1 か月 1 戸当たり使用料		
	3年度	4年度			3年度	4年度	3年度	4年度	増減率
13mm	1,283,781,695	1,246,841,216	△ 36,940,479	△2.9%	27.4%	27.2%	2,278	2,231	△2.1%
20mm	1,864,794,328	1,858,743,238	△ 6,051,090	△0.3%	39.9%	40.5%	4,226	4,150	△1.8%
25mm	178,528,876	177,466,691	△ 1,062,185	△0.6%	3.8%	3.9%	7,648	7,606	△0.5%
30mm	101,066,247	95,237,639	△ 5,828,608	△5.8%	2.2%	2.1%	24,856	23,959	△3.6%
40mm	371,329,645	364,658,963	△ 6,670,682	△1.8%	7.9%	7.9%	66,570	65,118	△2.2%
50mm	324,099,802	314,555,192	△ 9,544,610	△2.9%	6.9%	6.8%	147,385	145,830	△1.1%
75mm	503,076,078	485,224,037	△ 17,852,041	△3.5%	10.8%	10.6%	367,746	355,475	△3.3%
100mm	20,077,482	18,007,607	△ 2,069,875	△10.3%	0.4%	0.4%	478,035	500,211	4.6%
150mm	33,808,618	28,574,699	△ 5,233,919	△15.5%	0.7%	0.6%	704,346	595,306	△15.5%
合 計	4,680,562,771	4,589,309,282	△ 91,253,489	△1.9%	100.0%	100.0%	4,494	4,399	△2.1%

○水道用途区分別使用量・料金実績

1) 戸数

単位：戸；件

用途区分	3年度		4年度		増 減		増 減 率		構 成 比	
	年度末戸数	年 間延件数	年度末戸数	年 間延件数	年度末戸数	年 間延件数	年度末戸数	年 間延件数	年度末戸数	
									3年度	4年度
家 庭 用	79,361	955,090	79,444	957,277	83	2,187	0.1%	0.2%	91.8%	91.8%
工 業 用	275	3,307	271	3,274	△ 4	△ 33	△1.5%	△1.0%	0.3%	0.3%
商 業 用	4,988	60,210	4,973	59,993	△ 15	△ 217	△0.3%	△0.4%	5.8%	5.8%
官庁・学校用	1,845	22,772	1,852	22,591	7	△ 181	0.4%	△0.8%	2.1%	2.1%
船 舶 用	4	48	4	48	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
そ の 他	2	24	2	24	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	86,475	1,041,451	86,546	1,043,207	71	1,756	0.1%	0.2%	100.0%	100.0%

2) 使用量

単位：m³

用途区分	使 用 量		増 減	増減率	構 成 比		1 か月 1 戸当たり使用量		
	3年度	4年度			3年度	4年度	3年度	4年度	増減率
家 庭 用	16,188,240	15,891,190	△ 297,050	△1.8%	73.6%	73.9%	16.9	16.6	△1.8%
工 業 用	1,684,830	1,652,095	△ 32,735	△1.9%	7.7%	7.7%	509.5	504.6	△1.0%
商 業 用	2,164,101	2,107,581	△ 56,520	△2.6%	9.8%	9.8%	35.9	35.1	△2.2%
官庁・学校用	1,881,166	1,775,927	△ 105,239	△5.6%	8.6%	8.3%	82.6	78.6	△4.8%
船 舶 用	22,237	23,433	1,196	5.4%	0.1%	0.1%	463.3	488.2	5.4%
そ の 他	36,980	42,035	5,055	13.7%	0.2%	0.2%	1,540.8	1,751.5	13.7%
合 計	21,977,554	21,492,261	△ 485,293	△2.2%	100.0%	100.0%	21.1	20.6	△2.4%

3) 料金

単位：円

用途区分	料 金		増 減	増減率	構 成 比		1 か月 1 戸当たり使用料		
	3年度	4年度			3年度	4年度	3年度	4年度	増減率
家 庭 用	3,072,453,228	3,029,882,141	△ 42,571,087	△1.4%	65.7%	66.0%	3,217	3,165	△1.6%
工 業 用	413,762,877	405,310,892	△ 8,451,985	△2.0%	8.8%	8.8%	125,117	123,797	△1.1%
商 業 用	604,569,306	591,543,361	△ 13,025,945	△2.2%	12.9%	12.9%	10,041	9,860	△1.8%
官庁・学校用	581,631,034	553,776,283	△ 27,854,751	△4.8%	12.4%	12.1%	25,541	24,513	△4.0%
船 舶 用	5,670,986	5,992,689	321,703	5.7%	0.1%	0.1%	118,146	124,848	5.7%
そ の 他	2,475,340	2,803,916	328,576	13.3%	0.1%	0.1%	103,139	116,830	13.3%
合 計	4,680,562,771	4,589,309,282	△ 91,253,489	△1.9%	100.0%	100.0%	4,494	4,399	△2.1%

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
営 業 雑 収 益	12,052	9,762	△ 2,290

○年度末給水戸数 86,546 戸

令和4年度実績

受注工事収益（修繕） 300 千円

その他営業雑収益（設計審査手数料等） 9,462 千円

単位：件

	新設工事	改造工事	撤去工事	その他	合 計
3年度	676	513	397	83	1,669
4年度	653	575	423	90	1,741
比 較	△ 23	62	26	7	72

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
営 業 外 収 益	1,483,697	1,413,679	△ 70,018

○加入金実績

単位：個；千円

	3年度		4年度		比 較	
取付水道メーター	739	34,128	684	35,662	△ 55	1,534
口径変更による差額	169	8,558	143	6,368	△ 26	△ 2,190
計	908	42,686	827	42,030	△ 81	△ 656

○その他営業外収益

単位：千円

		3年度	4年度	比 較
受 取 利 息	預金利息	126	1,731	1,605
	貸付金利息	223	218	△ 5
	小 計	349	1,949	1,600
繰 入 金	児童手当	6,298	5,592	△ 706
	高料金対策	22,373	23,057	684
	統合水道	3,694	3,294	△ 400
	建設改良に要する経費	25,395	23,232	△ 2,163
小 計		57,760	55,175	△ 2,585
長 期 前 受 金 戻 入	長期前受補助金戻入	207,597	190,417	△ 17,180
	長期前受工事負担金戻入	709,766	676,147	△ 33,619
	長期前受受贈財産評価額戻入	15,672	15,392	△ 280
	長期前受繰入金戻入	125,511	116,805	△ 8,706
	長期前受寄附金戻入	200	200	0
小 計		1,058,746	998,961	△ 59,785
雑 収 益	貸付料	1,153	2,240	1,087
	下水等受託収益	62,662	71,057	8,395
	補償修繕収益	2,794	4,635	1,841
	消火栓維持管理費	18,753	13,529	△ 5,224
	脱水ケーキ売却代	117	99	△ 18
	原子力立地給付金	1,215	1,215	0
	原発事故損害賠償金	185	185	0
	不用品売却収益	1,523	0	△ 1,523
その他（還付金等）	964	2,203	1,239	
小 計		89,366	95,163	5,797
広 域 施 設 営 業 外 収 益	児童手当繰入金	852	1,057	205
	貸付料	185	296	111
	脱水ケーキ売却代	56	111	55
	原子力立地給付金	654	654	0
	長期前受金戻入	233,043	218,283	△ 14,760
小 計		234,790	220,401	△ 14,389
合 計		1,441,011	1,371,649	△ 69,362

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
用水供給営業収益 (給水収益)	76,436	76,061	△ 375

○令和4年度年間有収水量 780,623m³ (対前年度比 8,082m³の減)

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
用水供給営業外収益	13,141	12,334	△ 807

○用水供給営業外収益の内訳

単位：千円

	3年度	4年度	比 較
児童手当繰入金	48	59	11
貸付料	10	16	6
脱水ケーキ売却代	4	6	2
原子力立地給付金	37	37	0
長期前受金戻入	13,042	12,216	△ 826
計	13,141	12,334	△ 807

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
特 別 利 益 (用水供給特別利益を含む)	181	2,580	2,399

○土地売却益 2,407 千円

・用途廃止した浄水場用地 三ツ橋新田地内 (650.33m²)

○建物売却益 60 千円

・用途廃止したポンプ場施設 頸城区矢住地内

○車両売却益 113 千円

・車両入替えに伴う売却益

②収益的支出（中期経営計画主要事業は事業名に◎印）

◇管路の除却延長の減少により、固定資産除却費が減少したことから収益的支出全体で1.2%減少となった。

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
浄水場運転管理業務	294,858	326,846	31,988
経費内訳			
報酬	1,901	光熱燃料費	4,823
法定福利費	268	通信運搬費	7,174
備用品費	2,798	委託料	187,238
旅費交通費	43	手数料	719
動力費	92,778	薬品費	29,104
【目的】			
安定給水を継続するため、浄水場の適正な運転管理を行う。			
【概要及び成果】			
浄水処理量や水源水質に対応した薬品管理や配水運用の見直しなど、適正かつ効率的な運転管理により、安全で安定した水づくりを行うとともに経費の削減に努めた。 電気料金の上昇により、動力費が増加した。			
＜主な費用＞			
報酬	会計年度任用職員 1人		1,319 千円
動力費	各水源及び浄水場動力費		92,778 千円
委託料	浄水場運転管理業務委託料		168,500 千円
	電気保安業務委託料		2,577 千円
薬品費	次亜塩素酸ナトリウム等購入費		29,104 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
浄水施設維持管理業務	73,634	71,702	△ 1,932
経費内訳			
備用品費	143	委託料	17,042
修繕費	41,573	手数料	526
光熱燃料費	667	租税課金	40
賃借料	1,420	雑費	6,018
保険料	2,152	固定資産除却費	2,097
通信運搬費	24		
【目的】			
設備の点検整備を計画的に行うことで施設の長寿命化を図る。			
【概要及び成果】			
故障履歴、運転時間、設置環境を考慮し適切な時期に点検整備を行い、浄水場の安定した運転を行った。			
＜主な費用＞			
修繕費	安塚区船倉浄水場膜ろ過機UF膜モジュール取替工事費	2,910 千円	
	名立区不動浄水場流出弁・排泥弁修繕工事費	2,446 千円	
	正善寺浄水場送水ポンプ棟ドア修繕工事費	1,300 千円	
	浄水場設備等緊急修繕工事費	30,073 千円	
委託料	浄水施設維持管理業務委託料	17,042 千円	
雑費	水源かん養助成金	3,572 千円	

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎ 水 質 検 査 業 務	44,348	46,910	2,562
経費内訳			
備用品費	339	委託料	5,248
修繕費	36	手数料	40,601
光熱燃料費	83	薬品費	580
保険料	23		
【目的】			
安全な水道水を給水するため、水道法に基づく水質検査を実施する。			
【概要及び成果】			
法律に基づく水質検査に加え、市独自の検査項目を見直し水質検査を実施した。全ての検査地点で水質基準に適合することを確認した。			
＜主な費用＞			
委託料	管末毎日水質検査委託料		4,993 千円
手数料	水質検査等手数料		40,601 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎ 水 源 か ん 養 業 務	1,370	959	△ 411
経費内訳			
雑費	959		
【目的】			
水道水源の水質汚濁を防止し、将来にわたり安全で良質な水道水を安定的に供給できる水源を確保する。			
【概要及び成果】			
水道水源保護地域の森林整備を行った場所の下草刈りを行い生育の促進を図るとともに、浄水場見学会及び各種イベント時に水源保護の大切さを市民へ周知した。			
＜主な費用＞			
雑費	植樹林保育作業業務委託料		200 千円
	水源保護看板建替え		254 千円
【課題及び今後の方向性】			
水道水源保護に対する市民の意識を醸成するため、継続した啓発を引き続き実施していく。			

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
共同施設管理業務	51,785	55,313	3,528

経費内訳

共同施設管理分担費	55,205	ダム使用料	108
-----------	--------	-------	-----

【目的】

ダム施設を適正に維持管理し修繕工事を行うことで、正常な機能を維持する。

【概要及び成果】

後谷ダム、正善寺ダム及び柿崎川ダムの維持管理費及び運営費について、県との協定に基づく割合に応じて費用を負担する。

<協定における負担割合>

【後谷ダム】	新潟県	68.9%	上越市	31.1%
【正善寺ダム】	新潟県	58.8%	上越市	41.2%
【柿崎川ダム】	新潟県	82.5%	上越市	17.5%

<主な費用>

共同施設管理分担費	55,205 千円
ダム使用料（正善寺川河川流水占用料）	108 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
配水施設維持管理業務	172,275	185,760	13,485

経費内訳

報酬	6,008	賃借料	2,589
手当	1,266	保険料	656
法定福利費	1,049	通信運搬費	11,415
備用品費	1,722	委託料	22,795
旅費交通費	273	手数料	928
修繕費	37,006	租税課金	32
動力費	80,559	固定資産除却費	13,085
光熱燃料費	6,377		

【目的】

安全で安定した給水を行うため、配水施設の点検整備等を行い設備の長寿命化を図る。

【概要及び成果】

故障履歴、運転時間、設置環境を考慮し適切な時期に点検整備を行い、設備の長寿命化を図った。
電気料金の上昇により、動力費が増加した。

<主な費用>

修繕費	城山浄水場P C配水池防水補修工事費	19,967 千円
	三和区岡田ポンプ場遮断器等取替修繕工事費	1,960 千円
	名立区第3配水池プレハブ棟屋根修繕工事費	970 千円
動力費	ポンプ場等配水動力費	80,559 千円
委託料	民地内他工事立会等業務委託料	889 千円
	五智配水池撤去工事実施設計業務委託料	9,800 千円
固定資産除却費	導管本支管撤去工事費	11,954 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
水道管修繕業務	148,314	217,515	69,201
経費内訳			
報酬	1,319	光熱燃料費	758
手当	275	保険料	269
法定福利費	268	手数料	63
備用品費	432	印刷製本費	30
旅費交通費	31	租税課金	153
修繕費	213,917		
【特定財源】			
その他雑収益	21,450		
【目的】			
水道管の漏水及び給水に係る事故の未然防止と拡大防止を図る。			
【概要及び成果】			
水道管の漏水や急を要する他工事に係る支障移転に迅速に対応し、安定給水の継続を図った。広域施設水管橋修繕工事などにより、事業費が増加した。			
本支管・給水管修理件数 183件（対前年度比 35件の増）			
＜主な費用＞			
修繕費	責任修繕工事費		106,640 千円
	責任修繕工事舗装本復旧費		19,457 千円
	補償修繕工事費		18,086 千円
	大瀧区新堀川架管修繕工事費		5,555 千円
	広域施設水管橋修繕工事費		36,855 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
水道メーター取替業務	45,892	56,922	11,030
経費内訳			
報酬	1,319	光熱燃料費	105
手当	275	保険料	23
法定福利費	267	通信運搬費	658
備用品費	91	委託料	33,996
旅費交通費	81	印刷製本費	153
修繕費	19,954		
【目的】			
計量法に基づき、検定満期を迎えた水道メーターを取り替える。			
【概要及び成果】			
検定満期を迎える水道メーターの取替えを行った。 一般家庭用水道メーターの取替個数が増加したため、事業費が増加した。			
取替数 12,336個（対前年度比 1,438個の増）			
＜主な費用＞			
修繕費	取替用水道メーター		19,828 千円
委託料	取替業務委託料		33,996 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
受注工事業務	2,483	1,687	△ 796
経費内訳			
備用品費	48	賃借料	402
修繕費	90	委託料	1,147
【特定財源】			
受注工事収益	300		
【目的】			
安全で安定した給水を行うための給水装置工事の施工に係る管理を行う。			
【概要及び成果】			
申込みのあった給水装置工事の設計審査及び竣工検査を実施するとともに、適正な施工となるよう指定工事業者に対して指導・監督を行った。			
＜主な費用＞			
賃借料	工事受付システムリース料		402 千円
委託料	工事受付システム維持管理費		1,147 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎ 漏水調査業務	2,220	10,680	8,460
経費内訳			
修繕費	8,066	委託料	2,614
【目的】			
漏水調査により、突発的な断・減水などの事故を未然に防ぐとともに、有収率の維持向上を図る。また、施設の運転負荷を軽減し経費の削減を図る。			
【概要及び成果】			
水道使用量の検針時に合わせて漏水調査を実施し、25件の漏水を発見、修理を行うことにより有収率の向上を図った。			
頸城区、板倉区、清里区、中郷区において漏水調査口設置工事を行ったため、事業費が増加した。			
＜主な費用＞			
修繕費	漏水調査口設置工事費		8,066 千円
委託料	戸別音聴調査業務委託料		2,614 千円
(実施件数 26,139戸、対前年度比 3,797戸の増)			
【課題及び今後の方向性】			
検針時の漏水調査を継続するとともに、設置した漏水調査口を活用した漏水調査を実施し、漏水の早期発見・修理に努める。			

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎ 鉛製給水管対策業務	0	0	0
【目的】			
水道水を安全に使用していただくよう、需要家の敷地に埋設されている鉛製給水管の取替えについて周知・啓発を行うことで早期削減を図る。			
【概要及び成果】			
需要家の敷地に埋設された鉛製給水管の安全性や地震に対する脆弱性について、ガス供給区域内の対象需要家に対してはガス定期保安調査に合わせて説明を行い、区域外の対象需要家に対しては4年に1度、文書を郵送し周知を行う。			
令和4年度は、区域外の対象需要家に対して戸別訪問により説明を行った。			
折衝件数	399件	改善件数	60件（撤去52件、入替8件）

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
貯水槽水道・専用水道管理業務	27	26	△ 1
経費内訳			
通信運搬費	26		
【目的】			
貯水槽給水施設の管理基準を定めることにより、衛生的で安全な飲料水の給水を確保し、公衆衛生の向上を図る。			
【概要及び成果】			
貯水槽給水施設の設置者に対し、施設点検の義務について周知を行った。施設点検の報告で施設に不備があった場合は改善するよう指導を行った。			
＜主な費用＞			
通信運搬費	周知ハガキ郵送料 450件		26 千円
＜件数＞			
	設置届、廃止届、施設の変更	6 件	
	指導、助言	19 件	

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
マッピングシステム整備業務	8,502	8,953	451
経費内訳			
報酬	3,066	旅費交通費	93
手当	641	委託料	4,522
法定福利費	631		
【目的】			
ガス水道管路情報システム（マッピング）の管理を行い、水道施設の維持管理及び将来計画に活用する。			
【概要及び成果】			
工事竣工に伴う水道管情報の修正などを行い、システムを適正に維持管理した。			
＜主な費用＞			
報酬	会計年度任用職員 2人		3,066 千円
委託料	マッピングシステムソフト保守業務委託料		4,522 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
料金徴収委託業務	145,183	145,552	369
経費内訳			
備用品費	102	通信運搬費	8,156
修繕費	168	委託料	135,093
賃借料	1,895	手数料	138
【特定財源】 その他雑収益	67,771		
【目的】 民間ノウハウを活用することで、事務効率の向上とお客様サービスの充実を図る。			
【概要及び成果】 民間事業者に包括的な料金徴収業務を委託し、民間のノウハウを活用したことにより、収納率は中期経営計画の計画値99.5%に対し実績値99.7%となり、0.2ポイント上回る事ができた。 令和5年2月からスマートフォン決済を導入し、納付方法の選択肢を広げ、お客様サービスの充実を図った。			
＜主な費用＞			
賃借料	料金システムリース料		1,895 千円
通信運搬費	料金納入令書郵送料		8,156 千円
委託料	料金等徴収業務委託料		123,863 千円
	料金口座振替及びコンビニエンスストア収納手数料		9,571 千円
	スマートフォン決済システム改修業務委託料		315 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
無線設備管理業務	322	151	△ 171
経費内訳			
修繕費	6	委託料	86
通信運搬費	41	手数料	18
【目的】 漏水対応や災害時などにおける緊急連絡用無線設備を適正に維持管理する。			
【概要及び成果】 基地局や端末無線機器の通信機能点検及び無線設備の保守管理を行った。			
＜主な費用＞			
委託料	無線設備定期点検業務委託料		86 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
局ネットワーク管理業務	4,254	4,524	270
経費内訳			
備用品費	21	通信運搬費	480
賃借料	150	委託料	3,873
【目的】 局のネットワーク、サーバ機器等について、セキュリティを含め適正に維持管理する。			
【概要及び成果】 局のネットワークやOA機器等の管理を適正に行った。			
＜主な費用＞			
委託料	電算処理運用支援業務委託料		2,698 千円
	局内イントラネット保守業務委託料		1,153 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
入札業務	1,499	1,795	296
経費内訳			
備用品費	29	印刷製本費	4
賃借料	16	負担金及び補助	1,740
委託料	6		
【目的】 建設工事等について、透明性、公平性及び競争性の高い入札を適正かつ円滑に執行する。			
【概要及び成果】 建設工事等を透明性の高い電子入札システムにより執行した。また、ガス水道本支管工事において、制限付き一般競争入札や「一抜け方式」を引き続き実施するなど、公平性及び競争性の確保に努めた。			
＜主な費用＞			
備用品費	電子入札システム用ICカード購入費		18 千円
負担金及び補助	電子入札システム使用負担金		1,717 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
庁舎維持管理業務	8,380	10,310	1,930
経費内訳			
備用品費	157	通信運搬費	381
修繕費	351	委託料	4,444
光熱燃料費	3,579	手数料	1,021
賃借料	299	雑費	43
保険料	35		
【特定財源】			
その他雑収益	57		
【目的】 本局庁舎の適切な維持管理により執務環境を確保する。			
【概要及び成果】 本局庁舎の施設及び設備の定期的な保守点検等を実施し、安全性を確保した。			
＜主な費用＞			
光熱燃料費	庁舎電気料		1,980 千円
委託料	庁舎維持管理業務委託料		2,478 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
経理業務	999	1,000	1
経費内訳			
委託料	974	負担金及び補助	9
印刷製本費	17		
【目的】 地方公営企業法を始めとする関係法令に基づき適正な会計処理を行うことにより、事業経営の健全性を維持する。			
【概要及び成果】 上越市ガス水道事業会計規程に基づく経理処理を行うとともに、会計システムの適正な管理を行った。			
＜主な費用＞			
委託料	企業会計システム保守業務委託料		974 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較						
◎ 職 員 研 修	181	621	440						
経費内訳									
備用品費	23	負担金及び補助	417						
旅費交通費	181								
【目的】									
外部研修、内部研修を通じて職員の知識及び技術力の向上を図る。									
【概要及び成果】									
<p>職員の技術や知識の向上・継承のため、保安勤務時や突発事故発生時に対応する実技研修や災害時における給水支援活動向上研修などを実施した。また、職員に技術資格の取得を推奨するため、受験費用の一部助成を行った。</p>									
<p><主な費用></p> <table border="0"> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>研修会旅費交通費</td> <td>181 千円</td> </tr> <tr> <td>負担金及び補助</td> <td>研修会参加費等</td> <td>417 千円</td> </tr> </table>				旅費交通費	研修会旅費交通費	181 千円	負担金及び補助	研修会参加費等	417 千円
旅費交通費	研修会旅費交通費	181 千円							
負担金及び補助	研修会参加費等	417 千円							
【課題及び今後の方向性】									
<p>今後、業務経験の浅い職員の配置や、定年引上げに伴う職員の高齢化が見込まれることから、水道事業を継続し、技術を継承していくため、研修カリキュラムを適宜検証し、効率的、効果的な研修を進めていく。</p>									

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
その他営業費用	3,760,659	3,583,824	△ 176,835

経費内訳

報酬	1,319	通信運搬費	57
給料	280,364	委託料	2,005
手当	131,888	手数料	42
賞与引当金繰入額	35,676	印刷製本費	67
法定福利費	87,745	交際費	17
法定福利費引当金繰入額	7,095	負担金及び補助	1,532
厚生福利費	504	食糧費	1
退職給付費	44,991	租税課金	20
備用品費	3,747	需要開発費	770
旅費交通費	355	貸倒引当金繰入額	444
修繕費	183	雑費	367
光熱燃料費	200	たな卸減耗費	133
賃借料	250	固定資産除却費	65,836
保険料	1,558	減価償却費	2,916,658

【概要及び成果】

管路の除却延長の減少により固定資産除却費が減少したことから、事業費が減少した。

<主な費用>

職員給与費（営業費用及び用水供給営業費用に係る職員分）

単位：千円

	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
3年度	71人	283,704	164,692	43,757	94,267	586,420
4年度	70人	280,364	167,289	44,991	94,557	587,201
比較	△1人	△ 3,340	2,597	1,234	290	781

※管理者給与費含む

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
その他営業雑費用	7,367	4,713	△ 2,654

経費内訳

給料	2,502	法定福利費	706
手当	1,124	法定福利費引当金繰入額	59
賞与引当金繰入額	309	厚生福利費	13

【概要及び成果】

申込みのあった給水装置工事の設計審査及び竣工検査を実施するとともに、適正な施工となるよう指定工事業者に対して指導・監督を行った。

<主な費用>

職員給与費（営業雑費用に係る職員分）

単位：千円

	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
3年度	1人	3,469	2,652	0	1,240	7,361
4年度	1人	2,502	1,433	0	765	4,700
比較	0人	△ 967	△ 1,219	0	△ 475	△ 2,661

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
支払利息	249,401	224,896	△ 24,505

経費内訳

企業債利息	224,896
-------	---------

【概要及び成果】

中長期的な経営収支見通しに基づき、内部留保資金を活用し企業債の新規発行額を抑制することにより、支払利息額が減少した。

<支払先>

財務省	113,818 千円
地方公共団体金融機構	111,078 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
その他営業外費用	4,546	7,005	2,459
経費内訳			
雑支出	4,647	固定資産売却損	2,358
【概要及び成果】			
＜主な費用＞			
雑支出	消費税納税計算に伴う支出		2,569 千円
	他市への応急給水支援活動経費		840 千円
	福島第一・第二原発事故に伴う水質検査に係る費用		168 千円
固定資産売却損	土地売却等に伴う売却損		2,358 千円

(2) 資本的収支

単位：千円

(資本的収入) 予算額	決算額	翌年度繰越 財 源 額	予算額と決 算額の増減	予算額と決算額の増減の内訳				
				補助金	工事負担金	繰入金	固定資産 売却収入	用水供給 資本的収入
779,641	616,701	92,813	△ 162,940	0	△ 163,724	0	518	266
(資本的支出) 予算額	決算額	翌年度 繰越額	不 用 額	不用額の内訳				
				建設改良費	企業債償還金	用水供給 資本的支出		
4,127,947	3,279,178	439,165	409,604	408,132	1	1,471		

※上記の表は、消費税及び地方消費税込みの金額としている。

①資本的収入

◇企業債の新規借入を行わなかったことから資本的収入全体で27.3%減少となった。

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比較
企 業 債	200,000	0	△ 200,000

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比較
補 助 金	171,787	99,938	△ 71,849

- 生活基盤施設耐震化等交付金（重要給水施設配水管） 79,562 千円
- 生活基盤施設耐震化等交付金（老朽管更新事業） 20,376 千円

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
工 事 負 担 金	346,103	387,567	41,464

○下水道工事等に伴う移設補償費及び消火栓設置工事等に伴う負担金

単位：千円

区 分	3年度	4年度	比 較
区画整理・団地	34,278	18,502	△ 15,776
一般他工事関連	56,852	75,310	18,458
下水道関連	111,895	116,858	4,963
消火栓設置	61,320	90,305	28,985
支管・給水管関連	81,758	81,842	84
広域施設設備	0	4,750	4,750
合 計	346,103	387,567	41,464

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
繰 入 金	116,722	117,935	1,213

○繰入金

117,935 千円

・統合水道一般会計繰入金

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
固 定 資 産 売 却 収 入	49	939	890

○土地売却収入

726 千円

- ・用途廃止した浄水場用地 三ツ橋新田地内 (650.33㎡) 443 千円
- ・用途廃止した配水管用地 春日新田2丁目地内 (12.09㎡) 192 千円
- ・用途廃止したポンプ場用地 頸城区矢住地内 (257.80㎡) 91 千円

○建物売却収入

39 千円

- ・用途廃止したポンプ場施設 頸城区矢住地内

○車両売却収入

174 千円

- ・小型乗用車2台

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
用水供給資本的収入	0	266	266

○工事負担金

266 千円

②資本的支出

◇基幹管路の更新を優先的に進め、基幹管路耐震適合率が39.2%に上昇した。

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比 較
◎ 浄水施設更新事業	214,390	286,749	72,359

経費内訳

建物	1,690	機械装置	195,059
構築物	90,000		

【目的】

老朽化した浄水施設の更新を行い、安全で安定した給水を図る。

【概要及び成果】

アセットマネジメント（資産管理）で設定した計画耐用年数を基に施設の更新を行った。
城山浄水場大規模改修に向け、詳細設計を行った。また、老朽化した和田浄水場の計装設備更新工事を行い城山浄水場大規模改修に備えたほか、正善寺浄水場の脱水機の分解整備を行った。

<主な費用>

構築物	城山浄水場大規模改修事業	90,000 千円
機械装置	和田浄水場計装設備更新工事費	40,000 千円
	正善寺浄水場No.1脱水機オーバーホール工事費	58,000 千円
	柿崎川浄水場ろ過池ろ過材入替工事費	11,400 千円

【課題及び今後の方向性】

水道事業施設整備計画に基づき、更新時期を迎えた水道施設を計画的に更新する。更新に当たっては、計画耐用年数による更新を基本とするとともに、水需要の状況に対応したダウンサイジングによる施設の効率化を検討する。

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎ 配水施設更新事業	139,850	27,847	△ 112,003
経費内訳			
建物	1,522	機械装置	22,145
構築物	4,180		
【目的】			
老朽化した配水施設の更新を行い、安全で安定した給水を図る。			
【概要及び成果】			
<p>アセットマネジメント（資産管理）で設定した計画耐用年数を基に施設の更新を行った。 令和3年度に基幹管路耐震化事業に伴う大湊区内の配水場新設工事が完了したことから、事業費が減少した。</p>			
＜主な費用＞			
構築物	ポンプ場等転落防護柵設置（13か所）		3,000 千円
機械装置	東京田減圧弁設置		9,120 千円
	頸城区大蒲生田ポンプ場ポンプ更新		4,760 千円

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎基幹管路耐震化事業	744,604	546,696	△ 197,908

経費内訳

構築物	17,967	導管本支管	528,729
【特定財源】 補助金	99,938		

【目的】

地震等による断・減水区域を縮小し災害復旧期間を短縮するため、給水区域を結ぶ基幹管路の耐震化を進め、災害に強い水道給水網を構築し、安全で安定した給水を図る。

【概要及び成果】

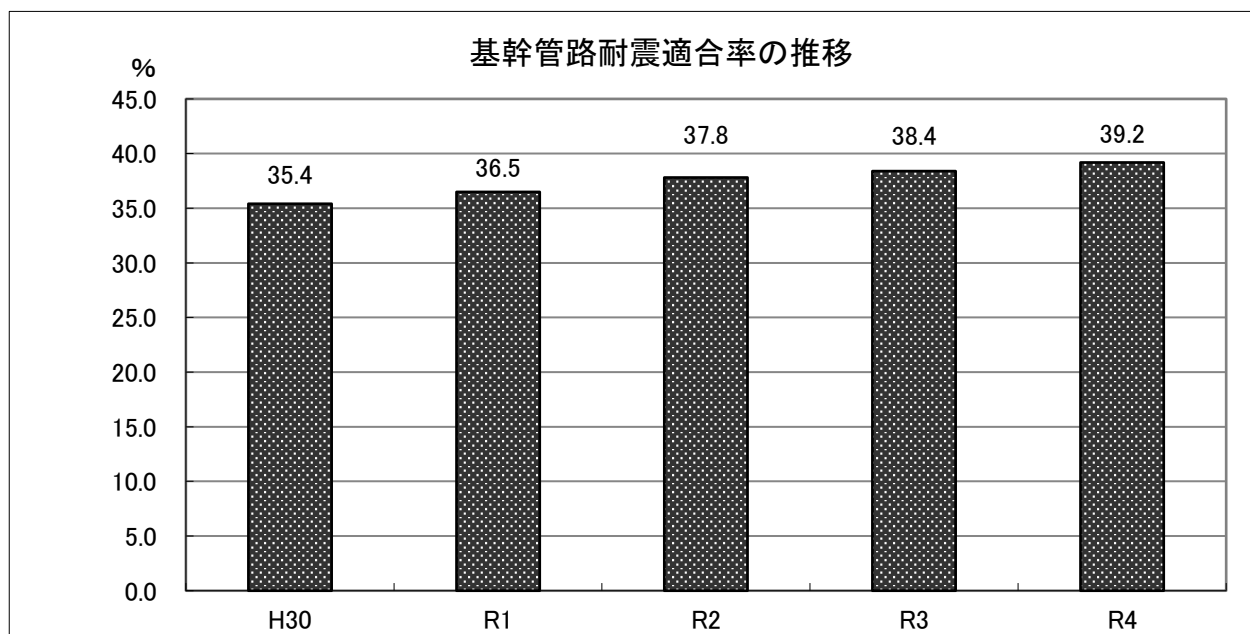
国の交付金事業を活用し、浄水場に近い大口径管や病院・避難所への配水管などの基幹管路の耐震化により災害時のリスクを軽減する取組を着実に進めた結果、第2次中期経営計画最終年度である令和4年度の基幹管路耐震適合率は、計画値の39.0%を上回った。

広域管入替工事の工程調整により次年度へ工事を繰り越したことから、事業費が減少した。

布設延長 L=2,706m

令和4年度末の基幹管路耐震適合率39.2%（計画値39.0%）

※基幹管路総延長516.7kmのうち202.6kmの耐震化が完了



【課題及び今後の方向性】

令和4年度に算定したアセットマネジメントにおいて、今後10年間に更新基準年数（計画耐用年数）を迎える基幹管路は7.6kmだが、将来の更新需要を平準化するとともに、耐震化を推進するため、第3次中期経営計画期間内で、その約4倍となる28.6kmの更新を実施する。

* 基幹管路耐震適合率は、レベル2地震動（震度6強以上）での耐震性能を基準として算出。基幹管路以外の配水支管の耐震適合率は、レベル1地震動（震度6弱以下）での耐震性能を基準としており、同様の基準で基幹管路を算出した場合の耐震適合率は90.7%となる。

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
◎ 経年管更新事業 (その他管路耐震化事業)	542,907	386,179	△ 156,728
経費内訳			
導管本支管	386,179		
【特定財源】 工事負担金	27,212		
【目的】 老朽化した水道管の更新を行い、有収率を維持することで、安全で安定した給水を図る。			
【概要及び成果】 漏水事故歴のある管路や計画耐用年数を基準として埋設年度の古い管路を選定し更新を進めた。 更新対象となる管路及び他工事と同時施工する工事箇所が減少したことなどにより、事業費が減少した。 布設延長 L=3,512m			
【課題及び今後の方向性】 直近で更新基準年数である計画耐用年数（50年～100年）を迎える水道管路は少ないものの、更新需要の平準化を図るため、法定耐用年数（40年）を超えた管路を前倒しして更新し、将来における管路の健全性の維持に努める。			

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
設 計 業 務	18,021	25,416	7,395
経費内訳			
構築物	4,300	導管本支管	21,116
【目的】 水道本支管工事の設計を行い、設計図及び設計書を作成する。			
【概要及び成果】 CAD設計積算システムを使用して設計積算を行うとともに、設計業務の一部を委託により実施した。 <主な費用> 導管本支管 本支管工事設計業務委託料 16,918 千円			

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較
その他建設改良費	1,841,853	1,824,732	△ 17,121

経費内訳

土地	4,044	導管本支管	369,073
構築物	516	導管給水管	271,936
車両運搬具	2,985	ソフトウェア	11,024
工具器具備品	11,017	企業債償還金	1,151,604
水道メーター	2,533		

【特定財源】

工事負担金	360,622	繰入金	117,935
-------	---------	-----	---------

【概要及び成果】

<主な費用>

職員給与費（設計監督業務に係る職員分）

単位：千円

	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
3年度	12人	46,294	29,471	0	15,547	91,312
4年度	12人	41,836	26,292	0	13,936	82,064
比較	0人	△ 4,458	△ 3,179	0	△ 1,611	△ 9,248

土地	広域管路埋設用地取得費（東中島地内）	2,894 千円
車両運搬具	車両2台入替	2,985 千円
工具器具備品	事務用パソコン18台更新	2,440 千円
導管本支管	下水道関連工事など導管本支管工事費 布設延長 L=3,832m	293,220 千円
ソフトウェア	地形図作成業務委託料	10,724 千円
企業債償還金	財務省	634,139 千円
	地方公共団体金融機構	517,465 千円

4 第2次水道事業中期経営計画との比較

業務指標名	単位	計画	決算	比較	計画 対比	増減理由
経年管更新率	%	100.0	86.3	△ 13.7	↓	計画耐用年数を超える管の更新を計画していたが、管体及び継手の健全性等が確認されたため、令和3年度にこれらの現状を踏まえて更新対象管を抽出したことから、計画値を下回った。 なお、令和5年度以降の水道施設整備計画は、既存管路の健全性を踏まえた内容とした。
基幹管路耐震適合率	%	39.0	39.2	0.2	↑	断減水リスクの大きい浄水場に近い大口径管路から順次更新を進めたほか、病院や避難所等への基幹管路の更新を着実に進めた結果、計画値を上回った。
有収率	%	91.9	93.3	1.4	↑	配水ブロックごとの有収率管理を行い、漏水の早期発見及び修繕を実施した結果、計画値を上回った。
水源保全投資額	円/m ³	0.09	0.06	△ 0.03	↓	計画した水源保護地域啓発看板設置及びパンフレットの作製、植林地草刈を予定通り実施した。 入札により発注額が減少したことから、計画値を下回った。
職員資格取得度	件/人	1.83	2.32	0.49	↑	職員へ資格取得を奨励するとともに、ガス水道技術の向上に寄与する技術資格取得に係る助成措置を継続して実施したこと及び職員構成の変動により、計画値を上回った。
水質に対する苦情割合	件/1,000件	1.00以下	0.50	△ 0.50	↑	老朽化した配水管の更新の進捗により、水質も改善されていることなどから苦情件数が減少し、計画値を上回った。

業務指標名	単位	計画	決算	比較	計画 対比	増減理由
鉛製給水管残存率	%	1.4	1.4	0.0	→	—
損益勘定所属職員 1人当たり有収水量	千m ³ /人	313.6	313.7	0.1	↑	有収水量は計画値より減少したものの、職員数が減少したことから、計画値を上回った。
経常収支比率	%	123.8	122.9	△ 0.9	↓	計画より有収水量が減少し経常収入が減少したことから、計画値を下回った。
給水収益に対する 企業債利息割合	%	4.8	4.8	0.0	→	—
給水収益に対する 企業債残高割合	%	259.8	254.1	△ 5.7	↑	給水収益は計画よりも下回ったものの、企業債の新規借入を抑制し企業債残高が減少したことから、計画値を上回った。
収納率	%	99.5	99.7	0.2	↑	口座振替を推進するなど料金の確実な納付を促すほか、分割納付や供給停止処分など、個別の状況に応じた収納対策を継続的に実施したことから、計画値を上回った。
配水量1m ³ 当たり 二酸化炭素排出量	g・CO ₂ /m ³	148.8	119.1	△ 29.7	↑	電力会社の二酸化炭素の排出係数の減少及び降雨に恵まれ消費電力の多い地下水浄水場の運転が少なかったことから、計画値を上回った。

※計画対比： ↑ 計画を上回っている ↓ 計画を下回っている

<参考> 第2次水道事業中期経営計画業務指標による評価

第2次計画に登載した業務指標の達成状況は、全14項目のうち、達成は13項目、未達成は1項目となった。未達成となった理由は以下のとおりである。

- ・「経年管更新率」は、漏水事故歴のある管路や計画耐用年数を基準として、埋設年度の古い管路を選定し更新を進めたが、これまでの管路更新工事において、既存埋設管の健全性が確認でき、管路の更新時期を延伸したことから未達成となった。

業務指標	単位	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	達成状況
基幹管路耐震適合率	%	計画	27.0	27.9	28.9	29.8	35.7	36.5	37.2	39.0	達成
		実績	27.3	28.3	29.1	29.9	36.5	37.8	38.4	39.2	
経年管更新率	%	計画	12.5	25.1	37.1	48.9	61.3	74.0	87.0	100.0	未達成
		実績	14.5	26.9	39.0	50.6	63.3	74.5	81.4	86.3	
施設耐震化率	%	計画	80.4	91.8	91.8	91.8	—	—	—	—	達成
		実績	80.4	91.8	91.8	91.8	—	—	—	—	
有収率	%	計画	91.9	91.9	91.9	91.9	91.9	91.9	91.9	91.9	達成
		実績	92.7	92.2	92.2	92.9	94.4	94.1	94.3	93.3	
取水量1m ³ 当たり 水源保全投資額	円/m ³	計画	0.23	0.23	0.23	0.23	0.12	0.09	0.12	0.09	達成
		実績	0.03	0.06	0.04	0.01	0.09	0.04	0.08	0.06	
職員資格取得度	件/人	計画	1.91	1.91	1.92	1.90	2.01	1.93	1.89	1.83	達成
		実績	2.01	1.92	2.05	2.15	2.25	2.29	2.30	2.32	
鉛製給水管残存率	%	計画	2.0	1.8	1.7	1.5	1.6	1.6	1.5	1.4	達成
		実績	2.1	1.7	1.6	1.5	1.6	1.6	1.5	1.4	
水質に対する苦情割合	件/1,000件	計画	1.00以下	1.00以下	1.00以下	1.00以下	1.00以下	1.00以下	1.00以下	1.00以下	達成
		実績	0.81	0.38	0.24	0.02	0.08	0.17	0.17	0.50	
損益勘定所属職員 1人当たり有収水量	千m ³ /人	計画	303.5	301.4	303.0	304.5	312.9	316.0	314.3	313.6	達成
		実績	305.7	315.7	321.6	319.0	312.2	321.5	316.2	313.7	
経常収支比率	%	計画	123.5	121.2	114.7	115.0	121.4	120.3	122.6	123.8	達成
		実績	127.0	127.8	126.9	126.4	123.7	121.7	124.6	122.9	
給水収益に対する 企業債利息割合	%	計画	8.1	7.8	7.6	7.2	6.2	5.8	5.3	4.8	達成
		実績	7.9	7.5	7.1	6.6	6.2	5.8	5.2	4.8	
給水収益に対する 企業債残高割合	%	計画	373.9	360.8	345.3	329.5	310.4	291.7	276.3	259.8	達成
		実績	374.2	359.2	340.2	324.4	310.7	294.9	273.4	254.1	
収納率	%	計画	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	達成
		実績	99.6	99.6	99.7	99.7	99.6	99.7	99.6	99.7	
配水量1m ³ 当たり 二酸化炭素排出量	g・CO ₂ /m ³	計画	169.6	170.1	170.6	171.1	148.9	148.8	148.8	148.8	達成
		実績	159.4	153.6	150.3	149.7	141.7	140.0	137.9	119.1	

※評価基準について

- ・基幹管路耐震適合率、経年管更新率、施設耐震化率、鉛製給水管残存率は、最終年度で目標に達している場合に評価は「達成」とした。
- ・取水量1m³当たり水源保全投資額は、計画値に対して実績値は低い水準となっているが、計画していた取組内容は実施していることから評価は「達成」とした。
- ・給水収益に対する企業債利息割合・企業債残高割合は、給水収益の変動に影響されるが、計画どおりに企業債利息・企業債残高が減少していることから評価は「達成」とした。
- ・上記以外の指標は、過半数の年度で達成していることから評価は「達成」とした。

所管委員会	農政建設常任委員会
関係案件	議案第74号
提出課	経営企画課

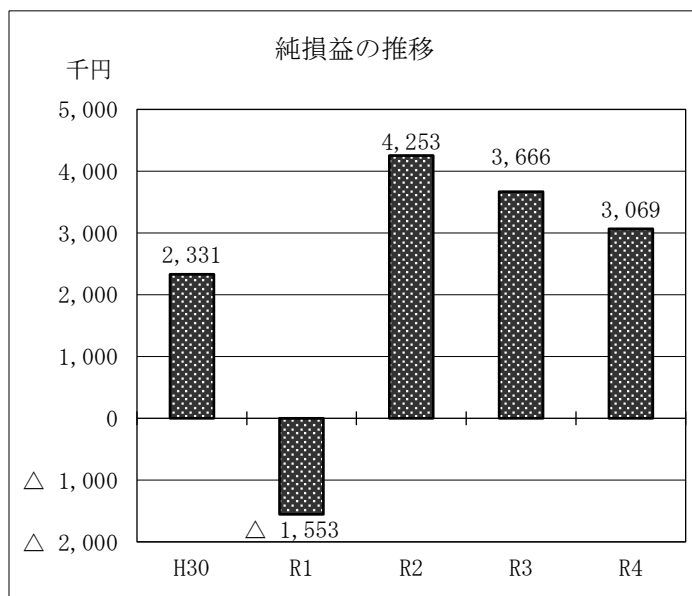
令和4年度上越市工業用水道事業会計決算の概要

※以下の金額は、消費税及び地方消費税抜きの金額としている。

- 収益的収入では、令和4年度末をもって事業を廃止したことに伴い、事業年度末日までの料金収入を計上したことから、料金収入は前年度比127万円（8.3%）増となり、固定資産除却費の増加により長期前受金戻入が増加したことから、収入合計は1,752万円となった。
- 収益的支出では、事業廃止に伴う不用資産の処分により固定資産除却費が増加したことから、支出合計は前年度比256万円（21.6%）増の1,445万円となり、当年度純利益は前年度に比べ59万円減の306万円となった。

1 業務の概要

区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比	
						増減数	増減率
1 給水事業所数 箇所	1	1	1	1	1	0	0.0%
2 施設能力 m ³ /日	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	0	0.0%
3 年間配水量 m ³	539,731	538,255	544,367	542,131	586,235	44,104	8.1%
4 年間有収水量 m ³	539,731	538,255	544,367	542,131	586,235	44,104	8.1%
5 一日平均配水量 m ³	1,479	1,471	1,491	1,485	1,484	△ 1	△ 0.1%
6 一日平均有収水量 m ³	1,479	1,471	1,491	1,485	1,484	△ 1	△ 0.1%
7 有収率 %	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	0	0.0%
8 職員数 人	1	1	1	1	1	0	0.0%



2 決算の概要

(1) 収益的収支

単位：千円

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
収 入	営業収益	15,510	15,552	15,438	15,463	16,741	1,278	8.3%
	給水収益	15,510	15,552	15,438	15,463	16,741	1,278	8.3%
	営業雑収益	0	11	0	0	0	0	0.0%
	営業外収益	460	3,833	83	91	782	691	759.3%
	受取利息	5	5	1	1	1	0	0.0%
	長期前受金戻入	217	3,828	78	78	769	691	885.9%
	その他営業外収益	238	0	4	12	12	0	0.0%
収 入 計	15,970	19,396	15,521	15,554	17,523	1,969	12.7%	
支 出	営業費用	13,639	20,949	11,268	11,888	14,454	2,566	21.6%
	職員給与費 (うち退職給付費)	7,674 (364)	5,208 (559)	5,708 (186)	6,214 (442)	6,727 (563)	513 (121)	8.3% (27.4%)
	修繕費	95	190	25	370	11	△ 359	△ 97.0%
	動力費	2,923	2,947	2,625	2,874	3,391	517	18.0%
	減価償却費	2,588	2,358	2,191	2,114	1,596	△ 518	△ 24.5%
	その他営業費用	359	10,246	719	316	2,729	2,413	763.6%
支 出 計	13,639	20,949	11,268	11,888	14,454	2,566	21.6%	
収支差引(純損益)	2,331	△ 1,553	4,253	3,666	3,069	△ 597	△ 16.3%	

(2) 資本的収支

単位：千円

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	前年度対比	
						増減数	増減率
支出							
建設改良費	0	0	1,605	0	0	0	0.0%
機械装置	0	0	1,064	0	0	0	0.0%
水道メーター	0	0	541	0	0	0	0.0%
支出計	0	0	1,605	0	0	0	0.0%
差引不足額	0	0	1,605	0	0	0	0.0%
補填財源							
過年度分損益勘定留保資金	0	0	1,605	0	0	0	0.0%
計	0	0	1,605	0	0	0	0.0%

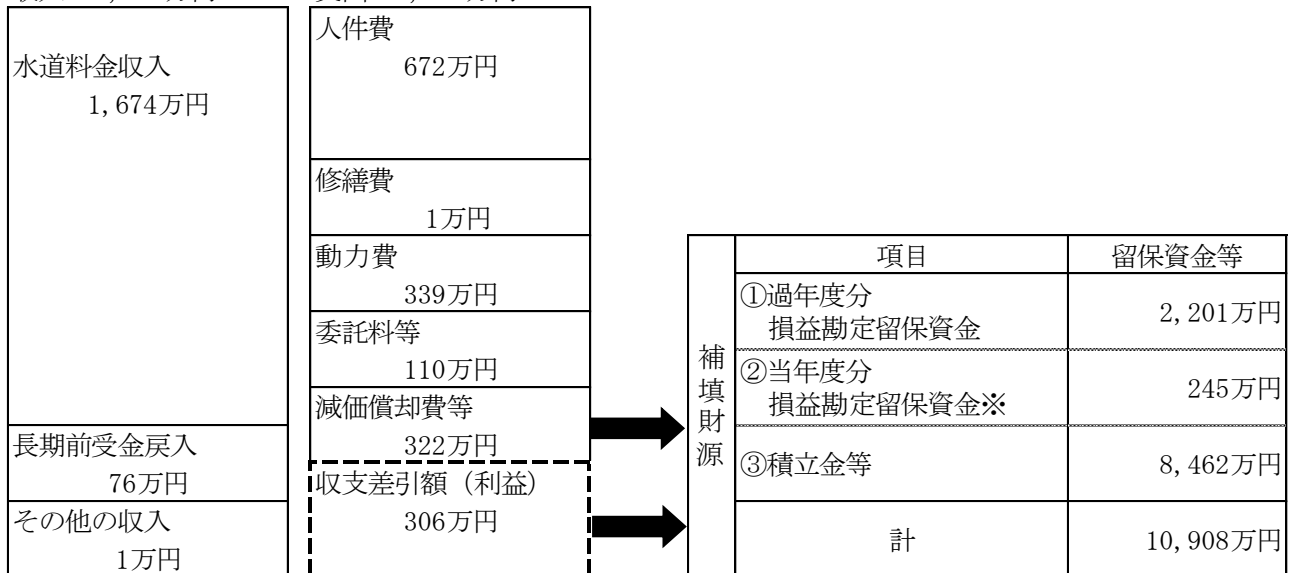
令和4年度決算の状況

【税抜：万円未満省略】

収益的収支

収入：1,752万円

支出：1,445万円



※ 減価償却費等から長期前受金戻入分の金額を除いた額

3 決算主要項目の内容

(1) 収益的収支

単位：千円

(収益的収入) 予 算 額	決 算 額	予算額と決算額の増減	予算額と決算額の増減の内訳	
			営業収益	営業外収益
17,379	19,198	1,819	1,354	465
(収益的支出) 予 算 額	決 算 額	不 用 額	不用額の内訳	
			営業費用	営業外費用
17,151	16,128	1,023	1,023	0

※上記の表は、消費税及び地方消費税込みの金額としている。

①収益的収入

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
給 水 収 益	15,463	16,741	1,278

○工業用水道口径別使用量・料金実績

1) 事業所数

単位：社；件

口 径	3年度		4年度		増 減		増 減 率	
	年度末社数	年間延件数	年度末社数	年間延件数	年度末社数	年間延件数	年度末社数	年間延件数
150mm	1	12	1	13	0	1	0.0%	8.3%

2) 使用量

単位：m³

口 径	使 用 量		増 減	増 減 率	1 か月 1 社 当 たり 使 用 量		
	3年度	4年度			3年度	4年度	増減率
150mm	542,131	586,235	44,104	8.1%	45,178	45,095	△0.2%

3) 料金

単位：円

口 径	料 金		増 減	増 減 率	1 か月 1 社 当 たり 使 用 料		
	3年度	4年度			3年度	4年度	増減率
150mm	15,463,157	16,741,320	1,278,163	8.3%	1,288,596	1,287,794	△0.1%

単位：千円

項 目	3年度決算	4年度決算	比 較
営 業 外 収 益	91	782	691

単位：千円

		3年度	4年度	比 較
受取利息	預金利息	1	1	0
長期前受金戻入	長期前受贈財産評価額戻入	78	769	691
雑収益	損害共済金還付金等	12	12	0
合 計		91	782	691

②収益的支出

単位：千円

事業名	3年度決算	4年度決算	比較			
工業用水道事業	11,888	14,454	2,566			
経費内訳						
給料	3,134	動力費	3,391			
手当	1,604	光熱燃料費	44			
賞与引当金繰入額	383	保険料	2			
法定福利費	963	通信運搬費	63			
法定福利費引当金繰入額	80	委託料	112			
厚生福利費	8	手数料	77			
退職給付費	563	負担金及び補助	6			
備用品費	41	固定資産除却費	2,376			
修繕費	11	減価償却費	1,596			
【特定財源】						
給水収益	14,454					
【目的】						
工業用水道施設の維持管理及び定期的な点検整備により、安定した給水を確保する。						
【概要及び成果】						
大潟区内1社に対し、地下水を汲み上げ工業用水道として供給した。						
<主な費用>						
職員給与費（営業費用に係る職員分）			単位：千円			
	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
3年度	1人	2,994	1,784	442	994	6,214
4年度	1人	3,134	1,987	563	1,043	6,727
比較	0人	140	203	121	49	513
動力費	使用量	158,650kwh（前年度比 919kwh減）		3,391 千円		
固定資産除却費	事業廃止に伴う除却処分			2,376 千円		
【課題及び今後の方向性】						
令和4年度をもって本事業を廃止し、事業用資産を供給先事業者に譲渡した。						

所 管 委 員 会	農政建設常任委員会
関 係 案 件	議案第 8 3 号
提 出 課	経営企画課

上越市ガス供給条例の一部改正について

1 改正理由

脱炭素社会の実現に向けた取組としてカーボンニュートラル化対象ガスの供給対象を拡大することに伴い、関係する規定を整備するもの

2 主な改正内容

- (1) 附帯契約、カーボンニュートラル化対象ガス及びカーボンクレジットの定義を定める。(第 2 条関係)
- (2) 管理者が別に定める要件を満たす場合は、規程で定めるところにより附帯契約を締結し、割り引いた料金によりガスを供給し、又は管理者が別に定める料金によりカーボンニュートラル化対象ガスを供給することができるものとする。(第 1 2 条関係)
- (3) 改正後の上越市ガス供給条例の規定は、この条例の施行の日以後に附帯契約を締結する者について適用し、同日前に附帯契約を締結した者については、なお従前の例によることとする。(附則第 2 項関係)
- (4) その他文言を整備する。

3 施行期日

令和 5 年 1 0 月 1 日

4 上越市ガス供給条例改正案新旧対照表

(下線部分が改正箇所)

改 正 案	改 正 前
(定義) 第 2 条 略 (1)～(25) 略 <u>(26) 附帯契約 ガスの小売供給契約に附帯して締結する契約をいう。</u> (追加) <u>(27) カーボンニュートラル化対象ガス 天然ガスの採掘から燃焼までの工程で発生する温室効果ガスについて、カーボンクレジットにより相殺し、天然ガスを使用しても二酸化炭素が発生しないとみなされるガスをいう。</u> (追加) <u>(28) カーボンクレジット 温室効果ガスの排出削減又は吸収活動により減少した温室効果ガスを定量化し、排出権として取引可能にしたものをいう。</u> (追加) (29) 及び(30) 略	(定義) 第 2 条 略 (1)～(25) 略 (26) 及び(27) 略

改 正 案	改 正 前
<p><u>(附帯契約)</u></p> <p>第12条 本市は、管理者が別に定める要件を満たす場合は、<u>規程で定めるところにより、附帯契約を締結し、前2条の規定により算定した料金から割り引いた料金によりガスを供給することができる。</u></p> <p>2 本市は、<u>管理者が別に定める要件を満たす場合は、規程で定めるところにより、附帯契約を締結し、管理者が別に定める料金によりカーボンニュートラル化対象ガスを供給することができる。</u></p> <p>(大口供給条件)</p> <p>第16条 本市は、<u>第2条第29号</u>に規定するガス供給量の要件に該当する場合で次の各号のいずれにも該当するときは、この条例に定める供給条件以外の供給条件によりガスの小売供給を行うことができる。この場合において、本市は、大口供給の料金を、別表第1に定める一般契約の料金のうち、使用量25立方メートル以下の使用者への適用料金を上限とし、大口供給に係る使用者以外の使用者の利益を阻害するおそれがない金額を下限として、その範囲内で定めるものとする。</p> <p>(1)及び(2) 略</p> <p>2 略</p> <p>3 大口供給を3年以上行っている場合であって、当該使用者が至近の3年において、連続して実際に供給したガスの量が正当な理由なく<u>第2条第29号</u>に定めるガス供給量に達しなかったときは、本市は、大口供給に係る契約を解約し、又は大口供給に係る契約の更新を承諾しないことができる。</p> <p>4 大口供給に係る契約をした者は、実際に年間に供給したガスの量が正当な理由なく<u>第2条第29号</u>に定めるガス供給量に達しなかったときは、別に定める補償料を本市に支払わなければならない。</p>	<p><u>(料金の割引)</u></p> <p>第12条 本市は、管理者が別に定める要件を満たす場合は、<u>規程で定めるところにより、前2条の規定により算定した料金から割り引いた料金を使用者から徴収することができる。</u></p> <p>(大口供給条件)</p> <p>第16条 本市は、<u>第2条第26号</u>に規定するガス供給量の要件に該当する場合で次の各号のいずれにも該当するときは、この条例に定める供給条件以外の供給条件によりガスの小売供給を行うことができる。この場合において、本市は、大口供給の料金を、別表第1に定める一般契約の料金のうち、使用量25立方メートル以下の使用者への適用料金を上限とし、大口供給に係る使用者以外の使用者の利益を阻害するおそれがない金額を下限として、その範囲内で定めるものとする。</p> <p>(1)及び(2) 略</p> <p>2 略</p> <p>3 大口供給を3年以上行っている場合であって、当該使用者が至近の3年において、連続して実際に供給したガスの量が正当な理由なく<u>第2条第26号</u>に定めるガス供給量に達しなかったときは、本市は、大口供給に係る契約を解約し、又は大口供給に係る契約の更新を承諾しないことができる。</p> <p>4 大口供給に係る契約をした者は、実際に年間に供給したガスの量が正当な理由なく<u>第2条第26号</u>に定めるガス供給量に達しなかったときは、別に定める補償料を本市に支払わなければならない。</p>

《参考》

カーボンニュートラル化対象ガス販売の経緯

- ・令和3年7月1日：大口需要家へ供給開始。有沢製作所と供給契約締結 ※新潟県内で初
- ・令和4年4月1日：理研製鋼と供給契約締結